

2020 年度

日野市高齢者見守り支援ネットワーク
事業報告書



2021 年 4 月

日野市健康福祉部高齢福祉課

- 目 次 -

はじめに「本業務の概要」	1
本業務の目的.....	1
これまでの取組	2
コラム 新型コロナウイルス感染症の流行.....	4
第1章「個別の取組の実施支援」	5
1-1 取組の概要.....	5
1-2 各取組の実施状況	6
1-2-1 はつらつ・あんしん調査（旧ふれあい訪問調査）	6
1-2-2 「見守り・声かけ」	9
1-2-3 ふれあいサロン.....	11
コラム コロナ禍のサロン活動	16
1-2-4 ちょこっと困りごとサービス	17
1-3 今年度の取組の達成状況と次年度の対応案.....	19
第2章「より良いネットワークの構築支援」	21
2-1 取組の概要.....	21
2-2 各取組の実施状況	23
2-2-1 一般市民への“気かけ”の意識付け	23
2-2-2 意欲の高い人の掘り起こし.....	26
コラム 新型コロナウイルスの高齢者の生活への影響.....	28
2-2-3 既存の取組・団体の活性化.....	29
2-3 今年度の取組の達成状況と次年度の対応案.....	32
第3章「ネットワーク運営に関するその他の支援」	35
3-1 取組の概要.....	35
3-2 各取組の実施状況	36
3-2-1 検討部会の開催.....	36
3-2-2 事業PRの実施.....	40
3-2-3 先進事例の検討調査.....	46
コラム ICT・IoTの活用による新しい社会の実現.....	49
3-3 今年度の取組の達成状況と次年度の対応案.....	50

はじめに「本業務の概要」

本業務の目的

(1) 見守り支援ネットワークの基本的な考え方

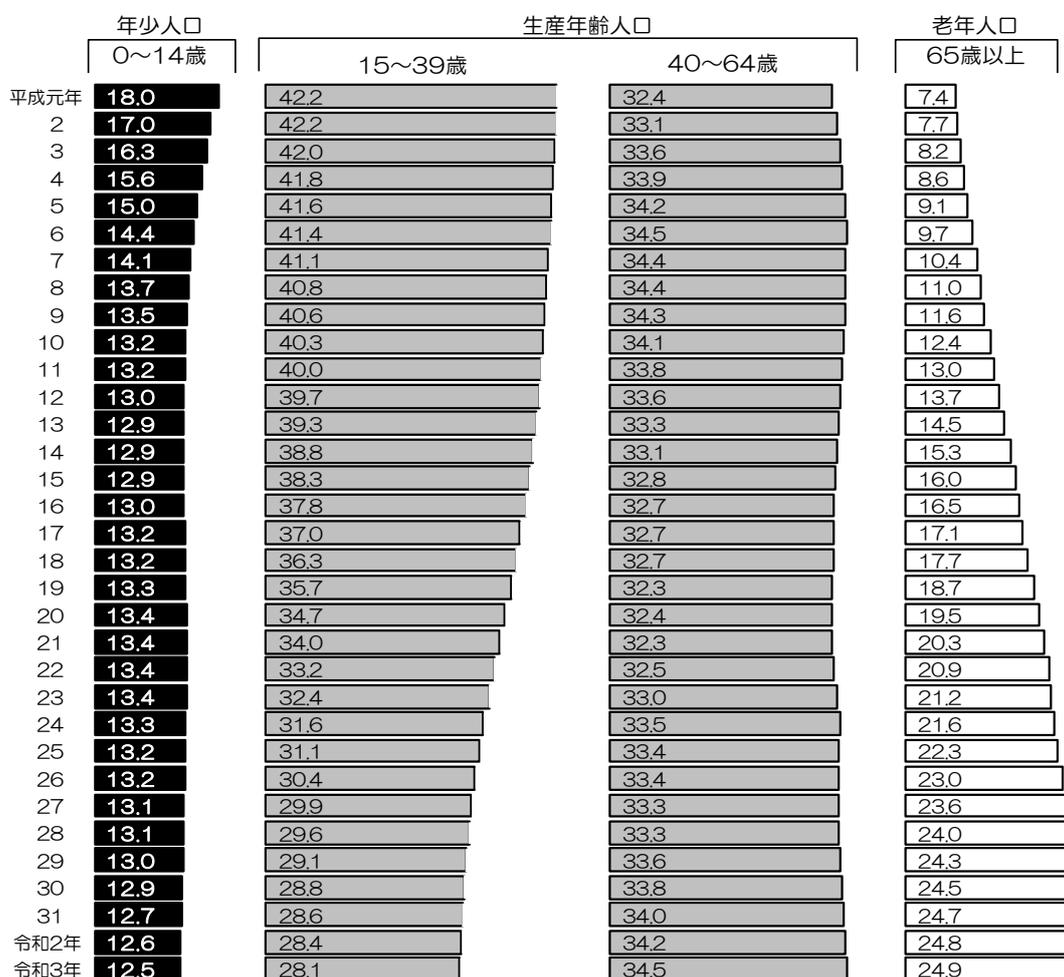
住み慣れた地域で支えあい、安心していきいきと暮らせるまち

近年、日野市の高齢者人口は1人暮らし世帯や高齢者のみ世帯を中心に増加を続けています(令和3年1月1日現在46,496人、高齢化率24.9%)。高齢者人口の増加に伴う虚弱や要介護となるおそれのある高齢者の増加、核家族化の進行に伴う家族による介護機能の低下、都市化傾向の進展による近隣コミュニティの結びつきの希薄化などを背景に、孤立死のような不幸な事件も起きています。

高齢者福祉の分野では、特に身近な「地域」で高齢者の生活を支える仕組みづくりが最重要課題となっており、日野市では、こうした社会的にも孤立しがちな高齢者を地域での支えあいを通じ見守り、支援する「高齢者見守り支援ネットワーク」の構築によって「安心していきいきと暮らせるまち」づくりに積極的に取り組んでいます。

(2) 本報告書の位置付け

本報告書は、上記の目的を達成するために平成16年度から取り組んできた「日野市高齢者見守り支援ネットワーク事業」の令和2年度の活動内容をまとめたものです。



※日野市男女別年齢別人口統計、各年1月1日現在のデータを集計

これまでの取組

高齢者の生活実態を調査し必要な支援内容を整理した上で、できることから少しずつ、地域のボランティアの方々の協力を得ながら活動を広げて来ました。

年度	テーマ	特徴的な取組
H16	○資源・ニーズの把握 ○モデルシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> 市内の高齢者を対象とした「ふれあい訪問調査」や事業所を対象とした“連携可能性調査”を実施し、「現在は元気で自立しているが健康面が不安なひとり暮らし高齢者」などの対象となる高齢者像と具体の支援内容を5つのパターンにとりまとめ
H17	○モデルシステムの試行・評価 ○事業計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> 市内4つのモデル地区で19人の対象高齢者、30人のふれあい見守り推進員とともに“見守り”“声かけ”の支援を試行 この成果をもとに、「週1回のさりげない見守り」「月1回程度の玄関先での声かけ」の活動を全市へ2カ年で展開する計画を作成
H18	○地域展開スタート	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に設定した目標に従って市内各地で順次ネットワークの立ち上げを行い、市内のちょうど半分で活動がスタート 立ち上げにあわせて「見守り支援ネットワークフォーラム」を開催したほか、2回目のふれあい訪問調査も実施（以降毎年実施）
H19	○基本型の全市展開 ○新しい活動の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度から始まったネットワークの立ち上げが完了し“見守り”“声かけ”が遂に全市に広がる 活動の中から見えてきた課題に対する新たな展開として「百草ふれあい協議会」による「ふれあいサロン」の開設を準備
H20	○ネットワークの拡大	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあい交流型」活動を継続的に支援するための要綱を策定 や5つのパターンの最後の1つ「お世話・お手伝い型」にあたる「ちょこっとお手伝いサービス」を新たに立ち上げ
H21	○活動の継続実施 ○新たな活動方針の検討	<ul style="list-style-type: none"> 対象高齢者や見守り推進員の拡充、サロン「よりみちさくら」の新規開設など既存の活動のフォローアップを実施 立ち上げ当初の計画がおおむね狙い通りに実施されたことから、課題の解消と更なる活動の充実を目指して新たな活動方針を検討
H22	○ネットワークの次なる展開	<ul style="list-style-type: none"> 既存の活動と並行して、平成21年度に検討した新たな活動方針の1つである「気かけ運動」の企画検討に着手 見守り支援ネットワークのPRの一環として、高齢者月間にあわせて市役所ホールを会場にパネル展を開催
H23	○全市展開から丸5年の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年に“見守り”“声かけ”の全市展開を開始してから丸5年が経過したのを記念して、これまでの活動の振り返りや今後の展開を考えるシンポジウムを大々的に開催
H24	○「気かけ運動」の積極的な展開 ○事業PRの展開	<ul style="list-style-type: none"> 「気かけ運動」の展開にあたって、従来の手あげ方式から、こちら積極的に地域を訪問して「勉強会」を開催する方法を試行 「気かけ運動」の展開とあわせて、広報ひのや「市民活動フェア」に参加して、見守り支援ネットワーク全体のPRを積極的に展開

／次頁に続く

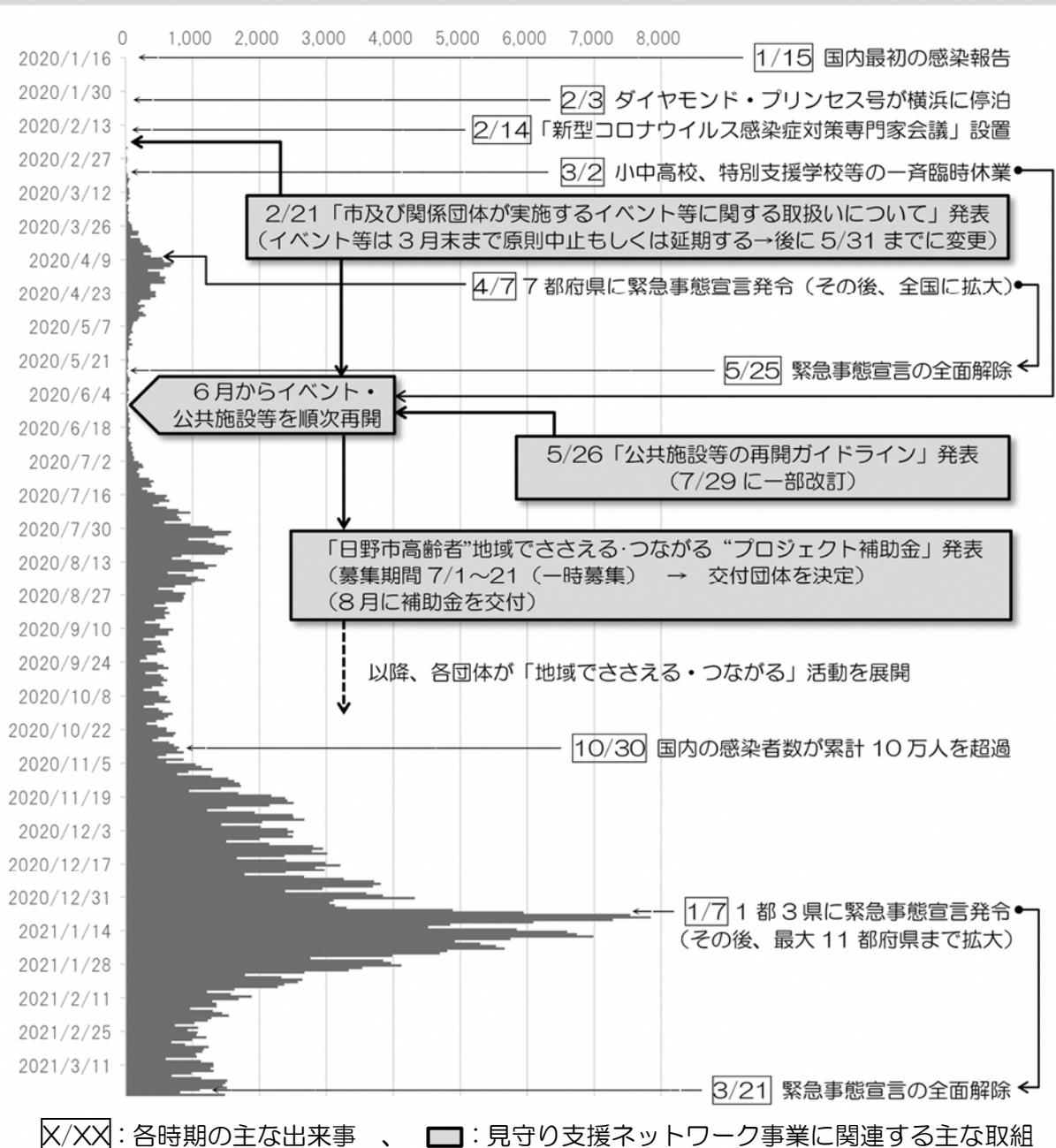
年度	テーマ	特徴的な取組
H25	○調査方法の改善 ○「気にかける運動」の継続展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの展開を検討する際の基礎資料の1つとなっていたふれあい訪問調査（はつらつ・あんしん調査）の実施方法を改善 ・「気にかける運動」の展開を継続しながら、市民活動フェアや「地域かわら版」にて取組のPRを実施
H26	○「気にかける運動」の一般化と拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・「気にかける運動」の狙いや基本的な活動イメージをまとめた「気にかける運動の手引き」等を作成 ・「手引き」とチラシを用いてより多くの地域への働きかけを実施
H27	○10周年記念シンポジウムの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区での試行から10年が経過することを記念して「見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム」を開催 ・シンポジウムでは、協力者の方々の労いとこれからの見守り支援ネットワークを考えるヒントを得るための講演等を実施
H28	○モデル地域への気にかける運動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を整理した上で選定したモデル地区において「気にかける運動」の集中展開を実施 ・見守り支援ネットワークの戦略的な展開や地域からの相談にあたっての検討材料として、高齢化の状況や集会施設の分布、サロン活動等の実施状況を整理
H29	○気にかける運動を入口にした統合型ネットワークへの転換検討	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区に対する継続的な支援を実施 ・見守り・声かけの基本的な方法を学び、活動目標を立てる勉強会の開催とそのテキスト「気にかける運動ワークブック」を作成
H30	○統合型ネットワークへの転換に向けた具体的取組の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・働きかけの狙いや対象の明確化 <ul style="list-style-type: none"> － 一般市民を対象にした“気にかける”の意識付け － 意欲の高い人の後押し － 既存の取組・団体の活性化 ・メール配信システム等の新たな仕組みの導入の検討 ・既存の取組の見直し、改善の開始
R1 (H31)	○統合型ネットワークの実現に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・働きかけの狙いに対応した3ステップに基づく戦略的な事業展開（特に、メール配信システムの導入準備や事業PRチラシの更新、ふれあいサロン体験ツアーなど） ・地図を使った課題や対応策の検討（「第2層協議体」を意識したプログラムの実践）
R2	○メール配信システムの運用開始	<ul style="list-style-type: none"> ・メール配信システムの導入・運用開始 ・その他、新型コロナウイルスに対応した活動に対する支援検討 <ul style="list-style-type: none"> － 「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金 等

コラム 新型コロナウイルス感染症の流行

令和2年度は、4月7日に緊急事態宣言が発令されるなど、地域での支えあいを旨とする見守り支援ネットワーク事業にとって大変な一年となりました。

この一年間の国内の新規陽性者数*の推移、各時期にあった主な出来事と、『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金（2-2-2参照）』等の見守り支援ネットワーク事業に関連する主な取組は以下の通りです。

※各自治体が公式に発表している個別の事例数（再陽性例を含む）を積み上げて算出したもの



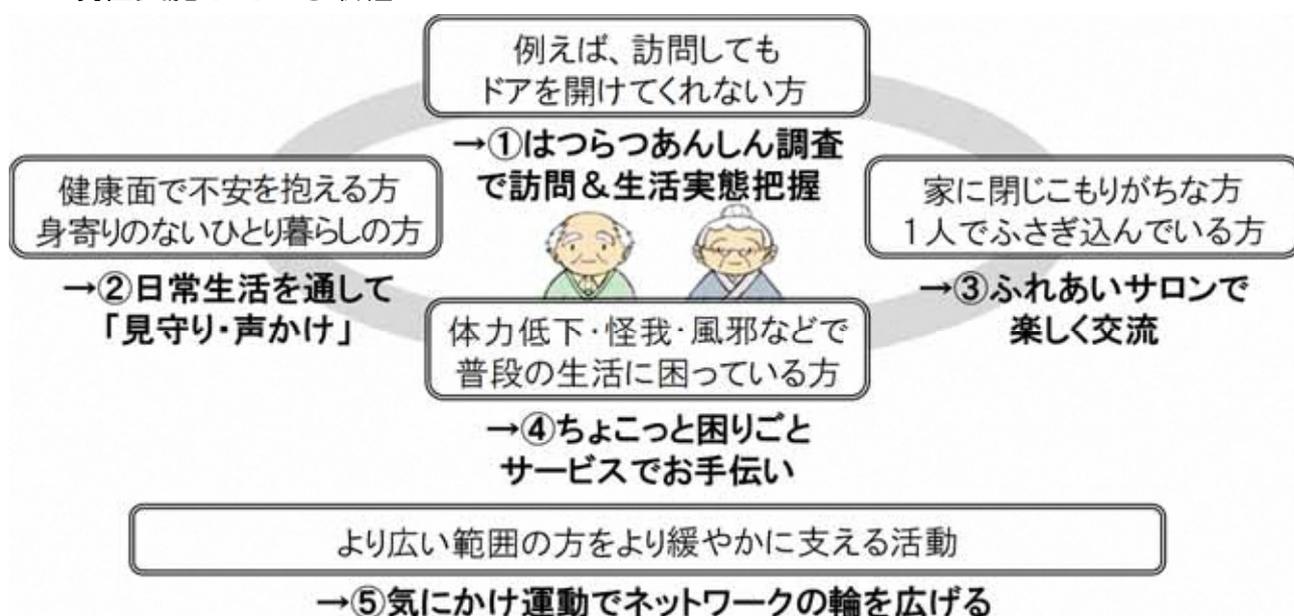
第1章「個別の取組の実施支援」

1 - 1 取組の概要

見守り支援ネットワークは、高齢者の生活実態を調査して、心配な高齢者をいくつかのパターンにまとめ、できることから少しずつ活動を広げてきました

現在、実施しているのは以下の①～⑤の5つの取組です。このうち、①～④のように対象を明確にせず、こうした取組を下支えする緩やかなネットワークの形成を目指す「⑤気かけ運動」については次章に掲載することとし、ここでは①～④の取組概要と今年度の実績についてまとめます。

▼現在実施している取組



1 - 2 各取組の実施状況

1 - 2 - 1 はつらつ・あんしん調査(旧ふれあい訪問調査)

(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークの主な対象である市内の高齢者に対して、生活の状況や満たすべきニーズを把握するために毎年実施しているのが「はつらつ・あんしん調査」です。本調査は、①高齢者の生活状況を把握し、②高齢者と直接顔をあわせる機会となり地域の中で「誰も知らない」高齢者を減らすことができるため、市の高齢福祉施策・地域福祉力づくりを検討する上で必要不可欠のものとなっています。

第1回目の調査を平成16年度に実施し、対象者の増加にともなう負担の軽減や類似調査との重複の解消等を目的とした改定を何度か行った後、現在は以下の内容を基本に、調査内容等の改善を適宜実施しながら調査を続けています。

▼調査の概要

項目	内 容
調査対象	以下の全てに該当する方 ①当該年度の4月1日現在、65歳以上のうち奇数年齢の方 ②介護認定を受けていない方、未申請の方 ③特定の施設に入院・入所等していない方 ④生活保護を受給していない方 ⑤介護予防・生活支援総合事業の対象でない方者 ※⑤は平成30年度に新たに追加した条件
調査内容	以下の各項目 ①世帯の状況 ②日中の過ごし方 ③現在の健康状態 ④サークル活動等への参加の有無 ⑤日常の移動能力 ⑥日常の交友状況 ⑦見守り支援ネットワークへの登録希望 ⑧ボランティアへの関心 ※②の内容を一部変更
調査方法	・郵送配布／郵送回収
民生委員の訪問	・郵送による返送が無かった方のうち75歳以上の方のお宅を訪問して市への返送を促進 ・上の訪問とあわせて、新たに75歳に到達された方、75歳以上の転入者のお宅を訪問して資料を配付
調査結果の提供先	・民生委員 ・地域包括支援センター ・UR都市機構（多摩平の森、高幡台団地の調査結果を提供） ・梵まちづくり研究所（調査内容の集計結果を提供）

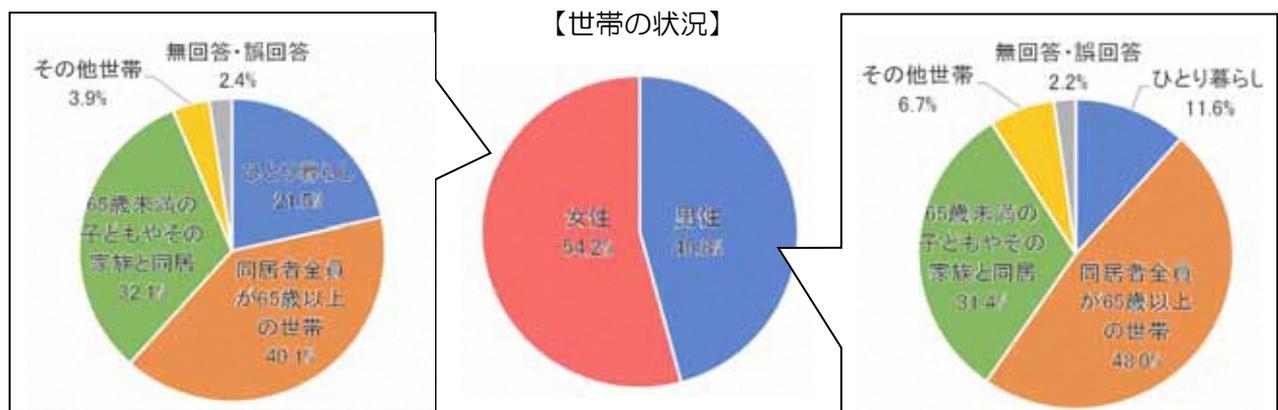
(2) 取組の実績

- ◇ 今回の調査では、全体（65歳以上）で13,432人、75歳以上では7,430人という多くの方から回答を得ることができました。
- ◇ 回収率は全体で7割強、75歳以上で9割弱と高い水準を維持しています。
特に後者については、75歳以上で未返送の方のお宅を民生委員が訪問し、返送を促進していることが大きな要因になっていると考えられます。
- ◇ 「ひとり暮らし」や「同居者全員が65歳以上の世帯」が僅かに増加しています。
- ◇ 日常の交友状況は、前年度と比較して各項目僅かに減少していますが、コロナ禍の状況を反映している可能性があります。
- ◇ 見守りを「お願いしたい」という人が5.5%で前年度より僅かに増加する一方、「ふれあい見守り推進員」やちょこっと困りごとサービスの「作業協力員」等のボランティアに興味があると答えた人の割合はそれぞれ3ポイント前後減少しています。

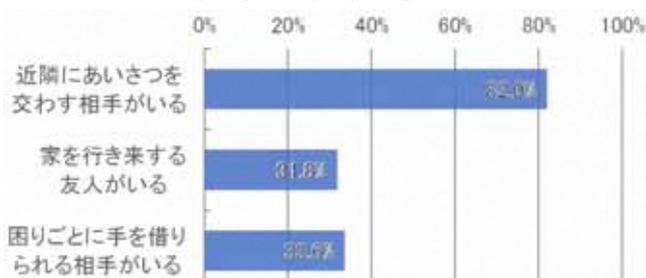
▼調査票の配布・回収状況

年度	全体		うち75歳以上	
	送付数	回収数 (回収率)	送付数	回収数 (回収率)
平成30年度調査	18,323人	13,575人 (74.1%)	8,127人	7,357人 (90.5%)
令和元年度調査	18,766人	13,615人 (72.6%)	8,606人	7,653人 (88.9%)
令和2年度調査	18,356人	13,432人 (73.2%)	8,446人	7,430人 (88.0%)

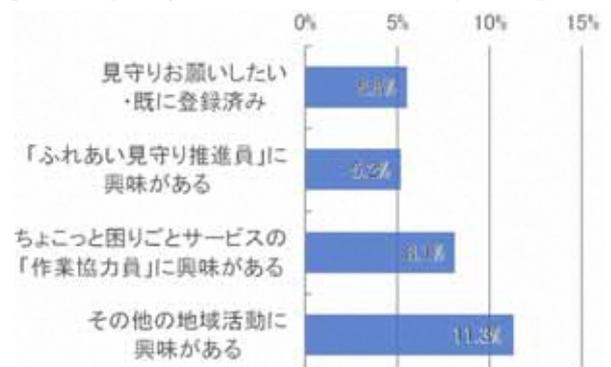
▼調査結果の概要



【日常の交友状況】



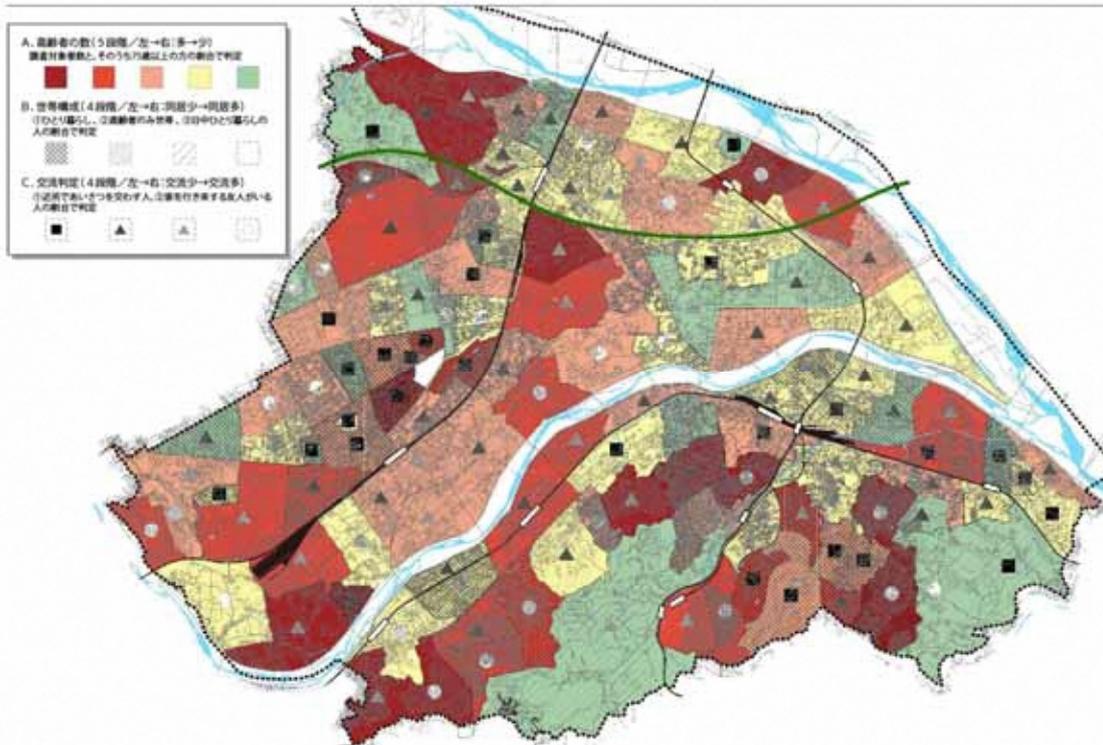
【見守り支援の希望／ボランティアへの関心※2】



※2 前者は単数回答、後者は複数回答の別の設問だが便宜上1つのグラフにまとめて表示する

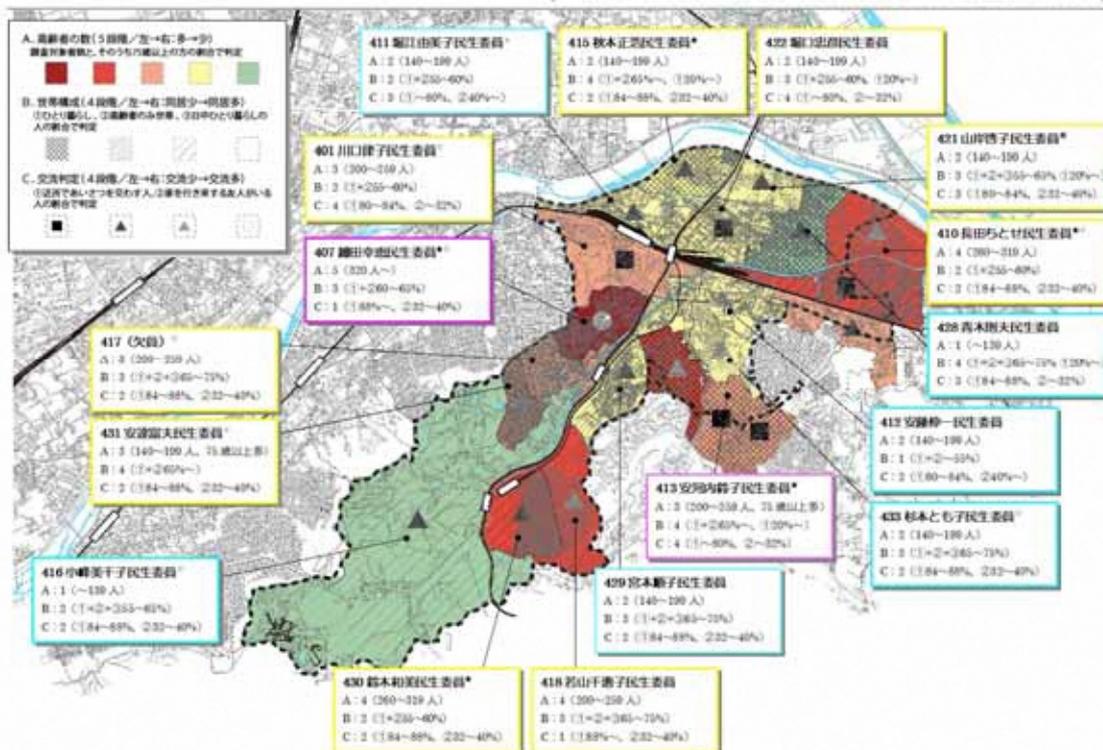
▼調査結果の活用（平成 29・30 年度の調査結果より）

- ◇ 2 年に 1 度、民生委員担当地域毎に高齢者の数や世帯構成、お付き合いの状況等の調査結果を整理して、地域の状況把握と対応の検討を進めています（奇数年齢が対象となるため 2 箇年分の結果を使用）。
- ◇ 次年度に前年度及び今年度の調査結果を整理した新たな資料を作成する予定です。



■地域の状況の抽出【あさかわ地域】

民生委員の色分けはA、B、Cの色分け（Aは2世帯で計算）から心配の多い地域にCとして表したものを
●：ネットワーク登録希望 15人以上、○：10人以上、◇：5人以上、△：4人以上



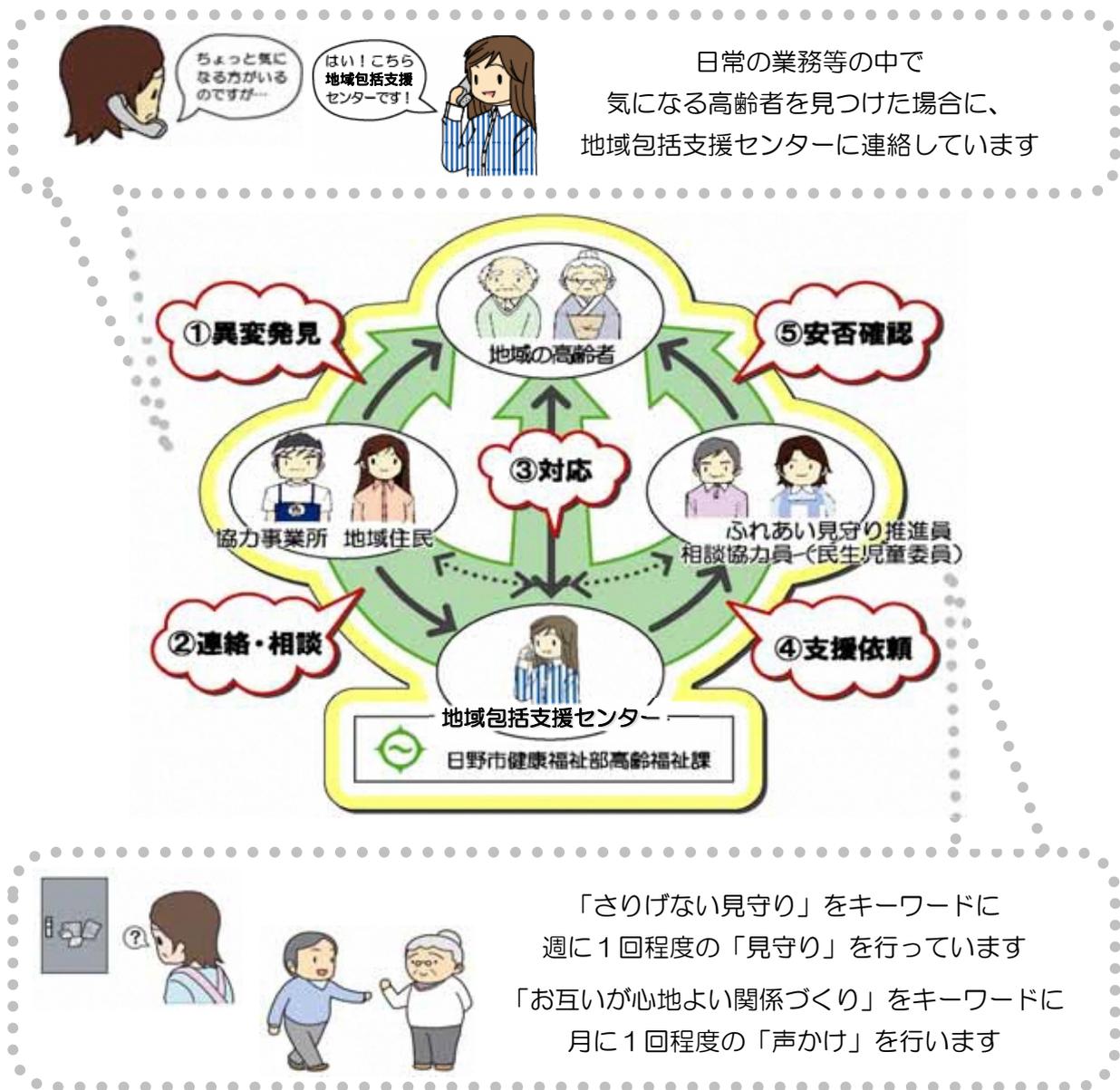
1-2-2 「見守り・声かけ」

(1) 取組の概要

地域の「ふれあい見守り推進員」「協力事業所」を中心に、地域での「見守り」による異変発見から定期的な安否確認の「声かけ」までを繋げる日野市の高齢者見守り支援ネットワークの基本型となる取り組みです。

平成17年度にモデル地区4地区でスタートしてから10年以上に渡って、協力者の輪を広げながら、地域の高齢者の異変発見や安否確認を行っています。

▼取組のイメージ



(2) 取組の実績

- ◇ 対象高齢者は、6人の新規登録がある一方、あいりん地域をはじめ各地域で登録廃止があったため、全体では18人の減少となっています。
- ◇ ふれあい見守り推進員は、新規の登録がなく、各地域で登録廃止が多数発生したため、全体では28人という大きな減少となっています。
- ◇ 協力事業所は、20事業所の登録廃止が発生したすてっぴ地域をはじめ登録数が減少する地域が多く、全体でもはじめての大きな減少となっています。

▼対象高齢者の登録状況

	もぐさ	あさかわ	すてっぴ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいきタウン	すずらん	かわきた	合計
H30	10人	16人	8人	24人	11人	8人	4人	6人	0人	87人
R1	10人	14人	7人	17人	10人	6人	4人	6人	0人	74人
R2	8人	15人	5人	9人	10人	3人	4人	6人	2人	62人
増減	+0人 -2人	+2人 -1人	+1人 -3人	+0人 -8人	+1人 -1人	+0人 -3人	+0人 -0人	+0人 -0人	+2人 -0人	+6人 -18人

▼ふれあい見守り推進員の登録状況

- ◇ 地域にお住まいの協力者の方々です。地域包括支援センターからの依頼を受けて、高齢者宅の訪問や、挨拶などの声かけを無理のない範囲で行っています。

	もぐさ	あさかわ	すてっぴ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいきタウン	すずらん	かわきた	合計
H30	18人	21人	21人	34人	25人	28人	13人	11人	10人	181人
R1	17人	23人	22人	35人	25人	24人	14人	8人	12人	180人
R2	13人	23人	18人	28人	24人	22人	10人	8人	6人	152人
増減	+0人 -4人	+0人 -0人	+0人 -4人	+0人 -7人	+0人 -1人	+0人 -2人	+0人 -4人	+0人 -0人	+0人 -6人	+0人 -28人

▼協力事業所の登録状況

- ◇ 商店、事務所、医療機関等の事業所の方々です。業務を通じて地域の高齢者と接する中で問題や異変を早期した場合に地域包括支援センターへ連絡を行っています。

	もぐさ	あさかわ	すてっぴ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいきタウン	すずらん	かわきた	市外	合計
H30	25所	93所	83所	107所	47所	50所	14所	36所	24所	12所	491所
R1	24所	94所	87所	105所	47所	53所	13所	35所	21所	13所	492所
R2	24所	92所	68所	99所	45所	51所	13所	33所	23所	13所	461所
増減	+0所 -0所	+2所 -4所	+1所 -20所	+0所 -6所	+1所 -3所	+0所 -2所	+1所 -1所	+1所 -3所	+2所 -0所	+1所 -0所	+8所 -39所

▼その他の機関との連携状況

日野警察署、日野消防署、日野郵便局、(株)日野環境保全の4機関にも事業開始当初から協力をいただいています。



「巡回中の見守り」
など



「防火診断のための
家庭訪問」など



「郵便配達時の
ポストの確認」など



「ごみ出し確認」「希望者
への声かけ収集」など

1-2-3 ふれあいサロン

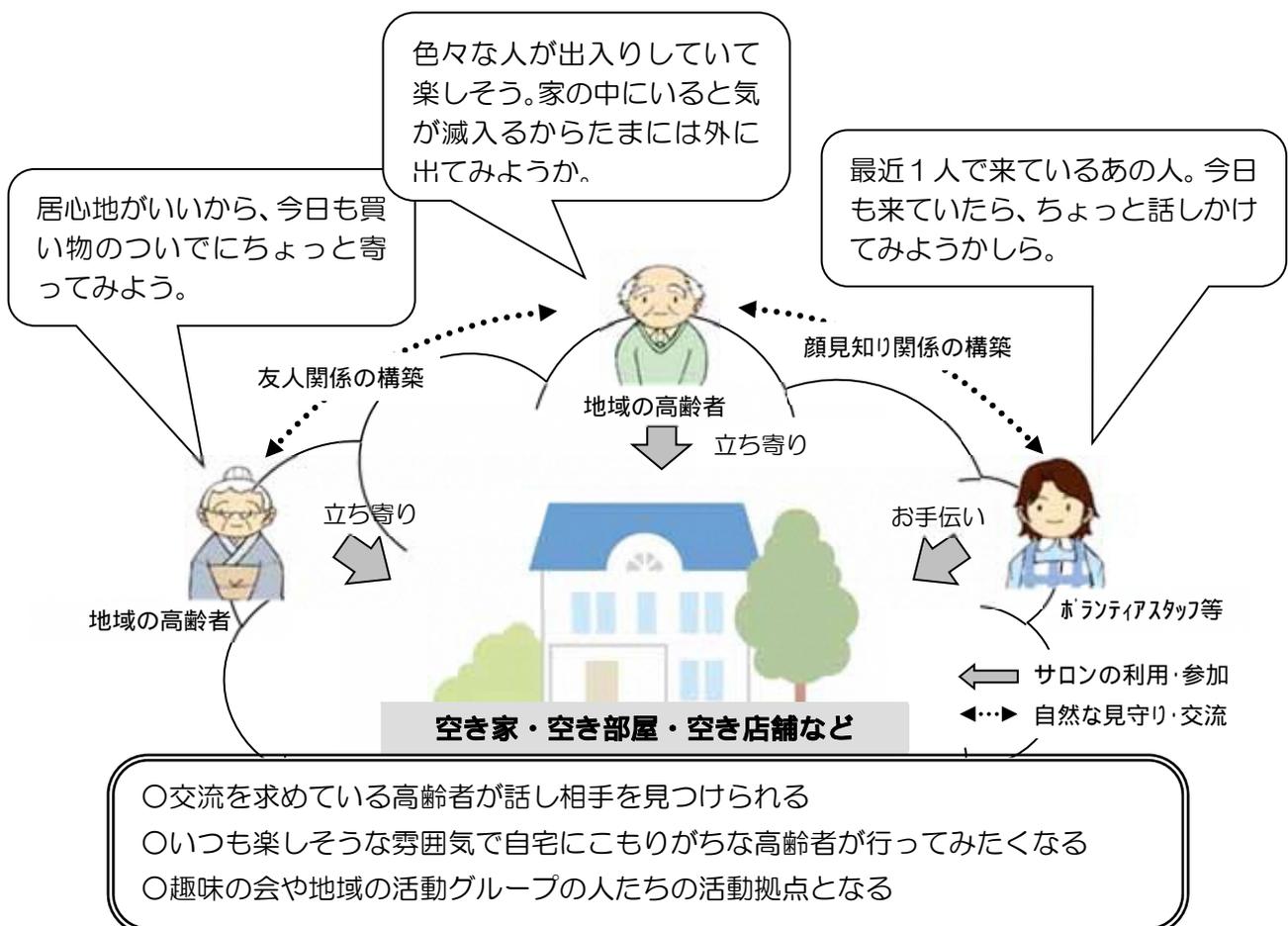
(1) 取組の概要

「見守り・声かけ」の活動を展開する中で、「登録を拒否する方や自宅に引きこもりがちの方への対応が課題」「地域の高齢者が集まれるような場所をつくってはどうか」といった声が出てきました。

「ふれあい交流型」の取り組みは、このような声に応えるべく、いつでも気軽に立ち寄れる「地域のたまり場」となるような場所をつくって、高齢者を含めた地域の多様な人が集まって交流する中で「自然に見守りができている」状態をつくりあげることを目指しています。

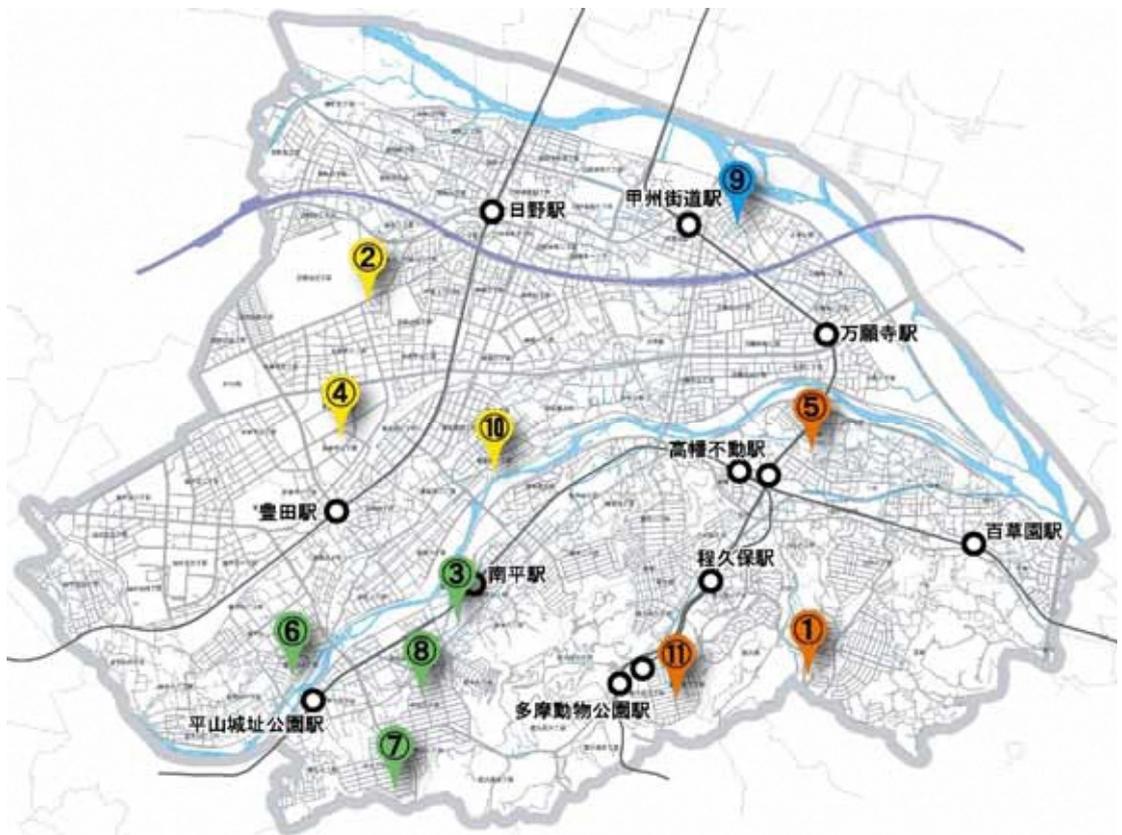
平成19年度から、交流の拠点となるような“場所”とその運営を担う“人”の両面から立ち上げの支援を開始し、平成20年4月に第1号の「百草団地ふれあいサロン」が正式オープンを迎えました。平成21年度からは、「日野市高齢者見守り支援ネットワークふれあい交流型実施要綱」にもとづき、高齢者とのふれあいをテーマにした既存の活動についても補助金の交付などの支援を行っています。

▼取組のイメージ



(2) 取組の実績

- ◇ 新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため年度当初と年度末の2回サロンの閉室をお願いすることとなり、各サロンとも例年に比べてオープン日数、来訪者とも大きく減少しています。
- ◇ 全11箇所のサロンのうち、「こんね(⑩)」を除く空家等の戸建て住宅を活用するサロン(②、③、⑤、⑦、⑧、⑪)と空店舗を活用する「百草団地ふれあいサロン(①)」では、オープン日数が前年度の6~7割程度になっています。来訪者は前年度の3~6割程度まで減少し、1日あたりの来訪者も大きく減少しています。
- ◇ 団地の集会室や地区センターを活用するサロン(④、⑥、⑨)では、閉室期間以外にも活動を自粛するところが多く、オープン日数が前年度の1~2割程度まで減少しています。こちらはオープン日数が大きく減少する一方、1日あたりの来訪者はあまり変化しないサロンが多くなっています。
- ◇ 「こんね(⑩)」は、オープン日数がゼロとなりましたが、コロナ禍で個人宅を開放して運営することの難しさがあったようです。
- ◇ 各サロンのスタッフの交流と活動内容に関する情報交換や悩みの共有等を目的に毎年開催している交流会については、コロナ禍での地域の交流・支えあい活動をテーマに、『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』の交付団体と合同で開催しました(同補助金については2-2-2を参照のこと)。
- ◇ 今年度はサロンの新規開設はありませんでした。



※丸番号はふれあいサロンとして支援を開始した順番を表す

▼ふれあい交流拠点の活動状況

◇ 週4日以上オープンなど高齢者の集まりやすさに対する配慮を求める。主に新規に高齢者の居場所づくりに取り組む場合を想定。

	百草団地ふれあいサロン ① (平成20年4月開設)	よりみちさくら ④ (平成21年6月開設)	南平ふれあいサロン ③ (平成13年11月開設) (平成20年月支援開始) (平成23年7月リニューアル)
場所	百草999 百草団地281号棟116番	多摩平2-6-1 多摩平の森さくら集会所内	南平7-16-14
体制	活動頻度：週4～5日 常駐スタッフ人数：2～3人	活動頻度：週5～6日 常駐スタッフ人数：2人～	活動頻度：週4日 常駐スタッフ人数：4人
実績	オープン日：129日 来訪者：のべ3,412人	オープン日：48日 来訪者：のべ965人	オープン日：108日 来訪者：のべ890人
			

	平山ふれあいサロンひだまり ⑦ (平成28年4月開設)	平山ふれあいサロンルレイユ ⑧ (平成28年7月開設)	明星地区つながりの家 アムール ⑩ (平成30年4月開設)
場所	平山2-7-1	平山3-12-1	程久保2-6-14
体制	活動頻度：週4日 常駐スタッフ人数：3～5人	活動頻度：週4日 常駐スタッフ人数：2+2人	活動頻度：週4日 常駐スタッフ人数：3人
実績	オープン日：116日 来訪者：のべ1,476人	オープン日：121日 来訪者：のべ1,598人	オープン日：123日 来訪者：のべ898人
			

※1 各サロンの丸番号は支援開始の順番を表す(12頁の図と対応)

支援開始の時期はサロン名称の下に「支援開始」または「開設」年月を記載する

※2 南平ふれあいサロンについては、平成20年度からふれあい交流活動型として支援を開始し、平成23年7月のリニューアル以降、ふれあい交流拠点型に移行している

▼ふれあい交流活動の活動状況

◇ ふれあい交流拠点の基準には満たないが、自主的な運営により高齢者の交流の場として機能しているような既存の活動を想定。

	談話室ひなたぼっこ (②) (平成 19 年 4 月移転) (平成 20 年 月支援開始)	南新井ふれあいサロン (⑤) (平成 22 年 7 月開設)	お話サロン (⑥) (平成 24 年 1 月開設) (平成 25 年度より支援開始)
場所	大坂上 4-20-18 1 階	新井 650-2	東平山 1-7-9 平山住宅 9 号棟 1 階
体制	活動頻度：週 4 日 常駐スタッフ人数：1~2 人	活動頻度：週 3 日 常駐スタッフ人数：2 人	活動頻度：週 1 日 常駐スタッフ人数：4 人
実績	オープン日：109 日 来訪者：のべ 765 人	オープン日：76 日 来訪者：のべ 647 人	オープン日：6 日 来訪者：のべ 83 人
			

	ふれあいサロン万願荘 (⑨) (平成 29 年 6 月開設)	お茶にこんね (⑩) (平成 29 年 7 月開設)
場所	日野 844-7 万願荘地区センター	東豊田 1-5-53
体制	活動頻度：週 1 日 常駐スタッフ人数：2 人	活動頻度：週 1 日 常駐スタッフ人数：3~4 人
実績	オープン日：3 日 来訪者：のべ 63 人	オープン日：0 日 来訪者：のべ 0 人
		

※ 各サロンの丸番号は支援開始の順番を表す（12 頁の図と対応）
支援開始の時期はサロン名称の下に「支援開始」または「開設」年月を記載する

▼サロン活動等を実施する団体の交流会（ふれあいサロンスタッフ交流会）の開催状況

- ◇ 今年度は、各サロンともコロナ禍での活動に苦労したことを踏まえて、「コロナ禍での地域の交流・支えあい活動」をテーマに、「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金の交付団体と合同で、コロナ対策の工夫等について情報交換を行う会を開催しました。
- ◇ 交流会では、参加団体をそれぞれの主要な活動内容から「屋外」「オンライン」「課題把握・支えあい」「サロン活動」の4つのグループに分け、各団体からの活動紹介と質疑応答を行いました。

開催日時	3月9日（火）14：00-16：00
開催場所	対面とオンラインの併用 ー対面形式 市役所 505-1 会議室 ーオンライン形式 ウェブ会議ツール「Zoom」を使用
参加者	＜サロン関係者等＞：29 団体（活動団体 26、行政機関 3） ＜事務局＞：日野市高齢福祉課、委託事業者 計 6 名
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. コロナ影響調査の結果報告【高齢福祉課より】 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から見てきた市内高齢者のニーズ等をご紹介します 3. 各団体からの活動紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・「屋外」「オンライン」「サロン活動」「課題把握・支えあい」の4テーマで時間を区切って、各団体からの発表と質疑応答を行います 4. 質問・情報交換タイム <ul style="list-style-type: none"> ・上で聞ききれなかったこと、言い足りなかったことを共有します 5. おわりに <ul style="list-style-type: none"> ・その他の連絡事項等 6. 閉会 <p>※ 当日は機材トラブルが発生したこと、参加団体が多く活動紹介に想定よりも多くの時間がかかったことから、上記のプログラムのうち実施できたのは 3 のみとなってしまいました。</p>



コラム コロナ禍のサロン活動

いつでも気軽に立ち寄れる「地域のたまり場」を目標に、地域の高齢者が集まりおしゃべり等を楽しむ場となっていたふれあいサロンにとって、重症化リスクの高い高齢者の感染予防、特に不要不急の外出の自粛や3つの密の回避といった要請は、活動に大きな影響を与えました。

そんな中、各サロンでは、地域のふれあい交流の拠点として様々な工夫を行う様子が見られました。ここではその取組の一例を紹介します。

この他にも、「感染が怖くて買い物等に行けない」といったサロン利用者の声に対応するため、買い物支援等を実施するサロンもありました。

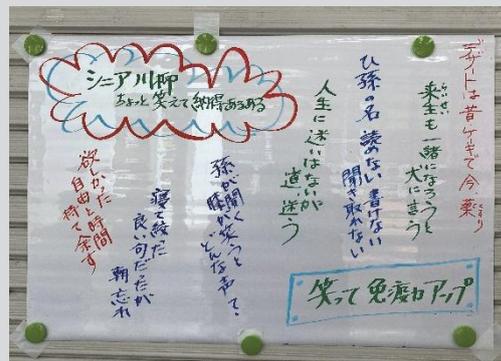
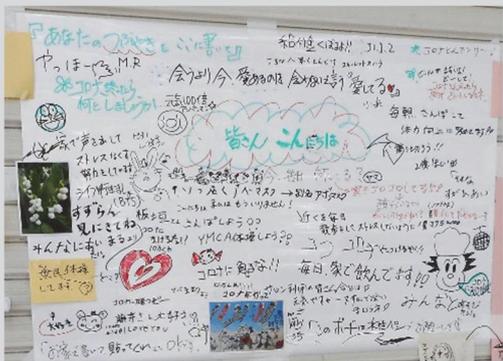
▼ホワイトボードを使ってリモート交流

緊急事態宣言の期間中、サロンが開けられない代わりに、サロンの前にホワイトボードを設置し、これを介して交流を図るサロンもありました。

—あるサロンでは、ホワイトボードを伝言版として活用

—またあるサロンでは、「笑って免疫力アップ」を目指して川柳を紹介

それまでサロンを訪れていたお客さんはもちろん、サロンに来たことがないような多様な年代の住民が立ち止まって眺めたり、書き込んだりする姿が見られました。



▼3密を避けるため屋外でウォーキング

外出自粛でなまった体を動かしながら、おしゃべりも少し楽しむ取組として、ウォーキングを始めたサロンもありました。

参加者からは、「感染が怖くてまだサロンには足を運べないけれど、ウォーキングだったら参加したい」という声がありました。



1-2-4 ちょっと困りごとサービス

(1) 取組の概要

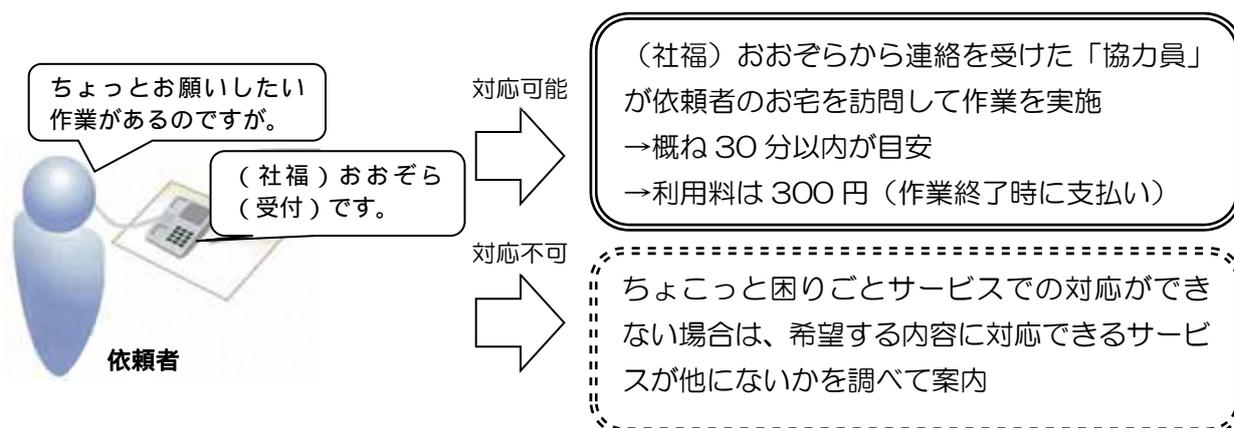
見守り支援ネットワークの検討当初より必要性が指摘されてきた、ひとり暮らし高齢者等の日常生活の「ちょっとした困りごと」をお手伝するべく、平成20年度からスタートした取組です。

対象者からの作業依頼の連絡を受けて、事業に登録するボランティア（「協力員」）の方が活動を行っています（「協力員」の登録がない地域から作業依頼があった場合など一部の依頼は受付窓口である「(社福)おおぞら」の職員が対応しています）。また、作業を行う際には、訪問先の高齢者の様子について気にかけてもらうようにしています。

本取組については、サービス内容が限られている、協力員が少ない、事業の周知が進まない等の理由で利用実績が思うように伸びていないことから、次年度以降は以下のような方針で事業内容の見直しを行う予定です。

- ◇ 全市一律の内容・対応ではなく、地域の中でニーズを拾い上げ対応できるような形への移行を目指す

▼取組の基本的な流れ



▼サービスを活用する場合のルール

- ・対象者 : 65歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯※、障害者のみの世帯
- ・作業内容 : 専門技術を必要としない概ね30分以内で終了する継続性のない作業
(電球の交換、ブレーカー落ちの修復など)
- ・利用料 : 1回300円(作業に係わる実費については別途利用者が負担する)
- ・利用方法 : (社福)おおぞらに直接電話で申込
- ・受付時間 : 土日祝日年末年始を除く午前9時～午後5時

※平成29年度より、対象者の年齢を70歳以上から65歳以上へと拡大

(2) 取組の実績

- ◇ 協力員数に増減はなく、前年度と同じ9人体制となっています。
- ◇ 依頼の電話は年間212件（平均17.7件/月）、うち114件（平均9.5件/月）に対応しています。
- ◇ 近年の実績と比較して依頼件数、作業実績ともに大きく減少していますが、作業実績の減少が顕著です。また、緊急事態宣言期間中の5ヶ月間、特に4～5月の依頼件数が少なくなっています。
- ◇ 作業内容は、「照明器具等の購入・交換」が作業実績の半数弱を占めています。他には、これまでと同様「家電、建具等の点検・修理」「重量物の移動（小型家具・粗大ゴミ等を含む）」が多くなっていますが、これに加えて「その他」の実績も多い点が今年度の特徴となっています。
- ◇ 「専門技術を必要としない」「30分以内」「継続性がない」という条件に当てはまらずにお断りした依頼には以下のようなものがありました。
 - 【シルバー人材センター等の他の事業所を紹介したもの（「業者紹介」に対応）】
 - －大型家具（ベッド等）（9件）
 - －家電、建具等の点検、修理（6件）
 - －照明器具の設置・交換（5件）
 - －庭の手入れ等（5件）
 - 【依頼をお断りしたもの（「対応不可」に対応）】
 - －1～2件程度の作業が多数

▼協力員の登録状況

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
協力員 総数	11人	12人	12人	7人	7人	7人	7人	9人	9人	9人
増減	+1人 -3人	+1人 -0人	+0人 -0人	+1人 -6人	+1人 -1人	+0人 -0人	+0人 -0人	+2人 -0人	+0人 -0人	+0人 -0人

▼依頼件数と活動実績

年度	総数 (依頼件数)	作業実績	業者紹介	対応不可	依頼 取り下げ	その他の 電話対応 (問合せ等)
平成30年度	321件	206件	66件	10件	30件	9件
令和元年度	309件	190件	66件	17件	24件	12件
令和2年度	212件	114件	51件	18件	17件	12件

作業内容は多い順に、

- ・ 照明器具等の購入・交換 : 51件
- ・ その他 : 22件
- ・ 重量物の移動 : 18件
- ・ 家電、建具等の点検・修理 : 17件 ほか

1 - 3 今年度の取組の達成状況と次年度の対応案

1-2-1から1-2-4の取組毎に今年度の成果と課題、今後の対応案を以下の通り整理しました。

▼ふれあい訪問調査（はつらつ・あんしん調査）の成果・課題・対応案

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全体（65歳以上）で13,432人、うち75歳以上では7,430人という多くの方から回答を得ることができました。 ・回収率は全体で7割強、75歳以上で9割弱という高い水準を維持しています。特に75歳以上の方については、9割弱という高い回収率となっており、市内の高齢者の生活実態を把握する有効な方法となっています。 ・9割弱という高い回収率は、75歳以上の方で未返送となっているお宅を個別に訪問する民生委員の方々のおかげですが、その訪問が民生委員と地域の高齢者との貴重な接点になっていることも例年の通りです。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果からは以下のような傾向が見えてきており、コロナ禍の影響による一時的なものかどうかを見極めながら、施策への反映を検討する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> －「ひとり暮らし」や「同居者全員が65歳以上の世帯」が僅かに増加 －日常の交友状況は各項目僅かに減少 －見守りを「お願いしたい」という人が僅かに増加する一方、ボランティアに興味があると答えた人の割合は減少 ・見守りを希望した方への対応に関して、包括支援センターが訪問する頃には希望したことを忘れてしまっている方が多いという指摘があります。
対応案	<ul style="list-style-type: none"> ・回答傾向の変化を踏まえて、見守り支援ネットワークの各取組の強化策を検討します。 ・回答者への訪問のタイミングを改善するにあわせて、質問項目の見直しなど調査全体の改善も検討します。 ・その他、コロナ禍で高齢者との貴重な接点になっていることを踏まえて、メール配信や日野市公式LINE等のPRなどにも活用することを検討します。

▼「見守り・声かけ」の成果・課題・対応案

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・登録廃止が多く発生したものの、見守り支援ネットワークの中で最も多くの協力者を抱える取組となっています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・対象高齢者、ふれあい見守り推進員、協力事業所いずれも大きな減少となっています。 ・登録者の減少は、登録廃止が多いのはもちろんのこと、コロナ禍で新規登録が少なかったことも要因となっており、しばらくはこのような傾向が続くことが予想されます。 ・既に活動している方々からは「これまでと同じように見守り・声かけを行っても大丈夫か」といった声が聞かれるほか、地域包括支援センターとふれあい見守り推進員の接点が少なくなるなど活動内容にもコロナ禍の影響が生じています。
対応案	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りを希望する高齢者に対応できるだけの「ふれあい見守り推進員」は維持しながら、コロナ禍で無理に登録者を増やすのではなく、地域での見守りやICT・IoTを活用した見守りなどによるネットワークの拡充も検討します。 ・長らく増加傾向が続き、今年度から減少に転じた協力事業所については、休眠状態の事業所に対してメール配信等を通じて活動例の情報発信を行うなど、量の拡大から質の拡充へと移行を図ります。

▼ふれあいサロンの成果・課題・対応案

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に一時活動を休止していたサロンが活動を再開し、全 11 箇所の体制を維持することができました。 ・新型コロナウイルスの感染拡大を予防するためサロンの閉室をお願いした期間には、希望のあったサロンにホワイトボードを提供し、情報発信やリモート交流を図る伝言板として活用してもらうことができました。 ・「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金を活用して、屋外での交流（ウォーキング）や、買い物支援、スマートフォン講座等に取り組むサロンもありました。 ・緊急事態宣言の解除後は、それぞれのサロンで感染予防に取り組み、制約がある中で、ふれあい交流の拠点としての役割を果たすことができました。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、緊急事態宣言に対応して 2 回（1 回目は前年度の 2 月末から）各サロンを閉室することをお願いすることになりました。 ・緊急事態宣言が解除された後は、感染対策をした上で活動を再開するサロンがある一方、サロンでの感染発生等を懸念して活動をお休みしたサロンもあり、各サロンのオープン日数が大きく減少しました。中には開設日ゼロというサロンもありました。 ・また、サロンの利用者からは、サロンが再開した後も「感染が怖くてサロンに行けない」という声もあり、各サロンの来訪者数も大きく減少しました。 ・開けられない時の支援（ホワイトボードの提供）を行う一方、開けるため、開けた後の支援を十分に行うことができず、各サロンの対応がバラバラになってしまいました。
<p>対応案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を自粛しているサロンについては、不要な心配を取り除く適切な情報提供や、「これならできる」を考えるための支援を行います。 ・活動を再開しているサロンについても、変異型ウイルスが流行している現状を踏まえて、改めて活動内容を点検できるような機会の提供を検討します。

▼ちょっと困りごとサービスの成果・課題・対応案

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と比べて依頼件数・作業件数が減少しているものの、全体では 212 件（平均 17.7 件/月）の依頼を受け、114 件（平均 9.5 件/月）に対応しています。 ・前年度と同様に 9 人体制で多くの依頼に対応しています。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとサービス内容が限られている、事業の周知が進まない等の理由で利用実績が思うように伸びていない中で、今年度は依頼件数と対応件数が大きく減少しています。 ・これは、依頼件数の減少と比較して作業実績の減少が顕著であること（「作業不可」等のその他の対応の件数はそれほど大きく変化していない）、緊急事態宣言期間中の依頼件数が少なくなっていることから、いつも決まった作業を依頼している人がコロナ禍で依頼を控えたことが要因の 1 つになっていることが想定されます。 ・協力員の人数については、コロナ禍でも横ばいとなっていますが、一部の作業を依頼窓口である（社福）おおぞらの職員が対応するなど慢性的に不足している状況です。
<p>対応案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の困りごとを支援するという考え方は、「生活支援体制整備事業」の主要な目的の 1 つとなっていることから、今後は同事業の中で、各地域でニーズを拾い上げ対応できるような体制の構築を進め、課題の解消を図ります。 ・体制の見直しにともなって、現行のサービス利用者が大きな不便を被ることがないように、社会福祉協議会等の類似サービスの連携を図ります。

第2章「より良いネットワークの構築支援」

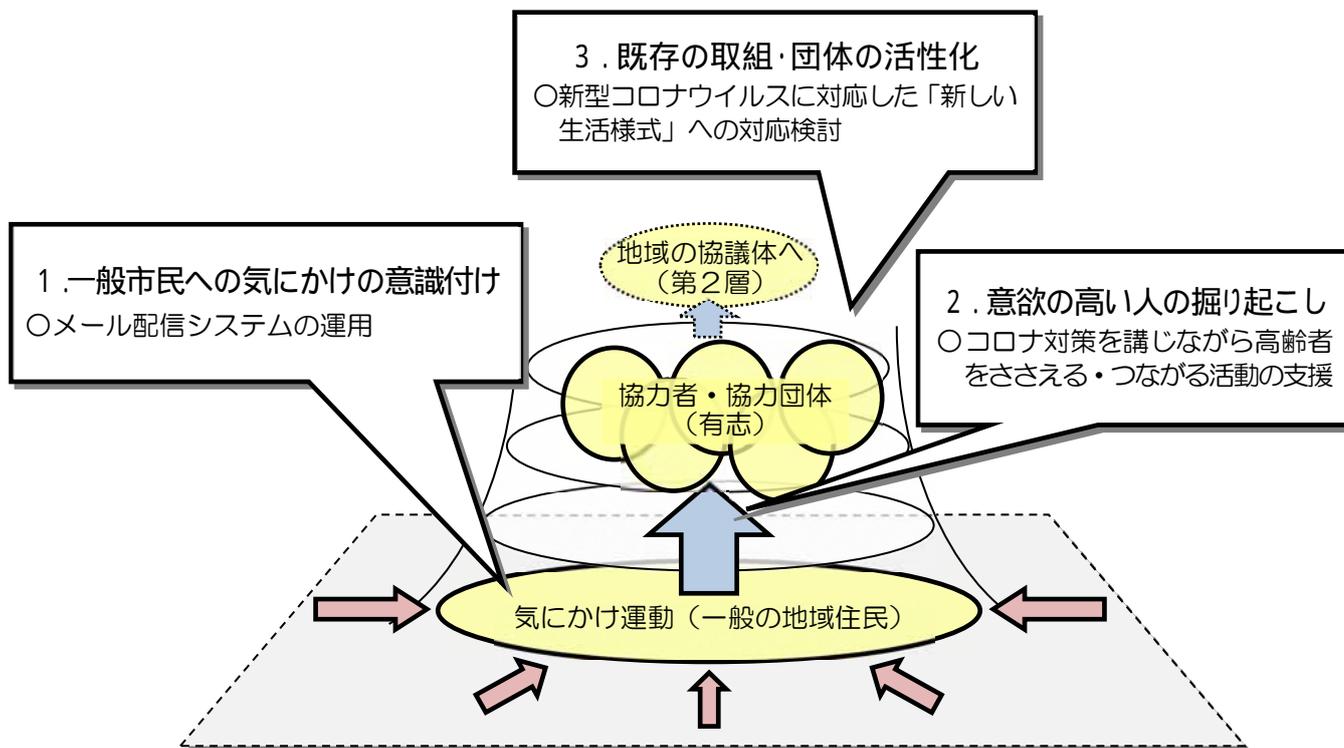
2 - 1 取組の概要

見守り支援ネットワークでは、前章で報告した既存の見守りパターンの見直し・改善や、平成22年度より企画検討をはじめた“気かけ”運動の更なる周知・普及、見守り支援ネットワーク全体に関する市民啓発など、ネットワークを将来にわたって持続・発展させていくための仕組みや体制づくりにも取り組んでいます。

具体的には、下図のような枠組みを設定して、一般の市民、一定の意欲のある人（協力者候補）、既に協力者として活動している個人・団体等をターゲットに、それぞれに対する働きかけを行ってきましたが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまでとはやや異なるアプローチで取り組むこととなりました。

下図の吹き出し内に各ターゲットに対して実施した今年度の主な取組を記載します。

▼今年度の取組イメージ



▼気かけ運動の3つのステップ《参考》

- ◇ 向こう三軒両隣の関係の再構築を目指して、以下のステップを設定し、市民への働きかけを行っています。
- ◇ この3つのステップは、前頁に掲載する今年度の取組イメージ図の枠組みの基礎となっています。

① 見ざる 言わざる 聞かざる からの脱却

まずは、周りの方を緩やかに“気かけ”て、深刻な状況になる前に適切なサービスにつなげることで、そのために高齢者等のちょっとした異変を発見して、速やかに地域包括支援センターに連絡が入る体制を目指しましょう。

② 一步踏み込んだ地域づくり

これだけでは足りない／もっとできそうと思ったら、上記からさらに一步踏み込んだ活動を展開している地域の事例を参考に、どんなことができそうか地域の中で話し合ってみましょう。

例) 地域の中で“気になる”方を見守る仕組みをつくる

例) 高齢者が集まる地域の拠点(サロン)をつくる

例) 地域の中で困っている方を支える仕組みをつくる



③ “向こう三軒両隣”のお付き合いへ

日頃からお互いに気かけあっていれば、相手の様子の変化に気付いてあげられるだけでなく、日常のちょっとした困り事や災害時に助け合える関係にもつながります。また、心配な方を適切なタイミングで支援につなぎ、孤立死のような悲しい事件を未然に防ぐ特効薬となることも期待されます。目指しているのは、このような“向こう三軒両隣”の再構築です。

2 - 2 各取組の実施状況

2 - 2 - 1 一般市民への“気にかげ”の意識付け

(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークでは、対象高齢者とふれあい見守り推進員をマッチングした1対1の見守り・声かけを中心に活動を広げてきました。しかし、事業開始から数年が経過し、「登録を拒否するが心配な高齢者がいる」「他にも目が行き届いていない高齢者がいる」といった課題が明らかになってきたことから、見守る相手を特定せずに広く身の回りを対象とする“気にかげ”を誰でも気軽に参加できる“運動”として始めようという「気にかげ運動」の展開を進めています。

この「気にかげ運動」の展開にあたっては、自身の携帯電話等で手軽に登録ができ、定期的な情報発信により継続的に意識付けが図れるという強みを持った「メール配信システム」の導入（メールマガジンの発行）に向けた検討を進めています。

令和2年度は、前年度までの検討・準備を踏まえて、実際にメールを配信することに取り組みました。

▼「メール配信システム」のイメージ



※メール配信には、日野市行方不明者情報メール配信サービスと同一のシステムを活用しているため、メール登録者には見守り関連情報の他に、行方不明者情報も届きます（どちらかの内容の受取を拒否している方を除く）

(2) 取組の実績

約1,400件の登録者を対象に、まず9月に創刊準備号を配信し、おおよそ1～2か月に1回の頻度で通算5号のメールを配信しました。12月からは、「コロナ対策に関する情報発信」を連続で配信しています。

当初は、テキスト形式のみの配信でしたが、通算3号目となる2020.12.23号からはHTML形式のメールも作成し、スマートフォンやPCでメールを受信している方にはこちらが届くようになっています。

また、配信するメールの内容や運用を改善する材料を集めるため、各号にはご意見やご質問を募集するWEBフォームのリンクも掲載しています。

▼前年度に実施したアンケート結果から導かれた運用方針《参考》

- ◇ まずは、2ヶ月に1回の頻度で、「ワンポイントアドバイス」や「参考となる取組の情報」を伝えるシリーズ（「(仮)こんな時どうするの」）を配信する
- ◇ この合間に、「時々の注意事項」や「イベント情報」等があれば（例えば、「認知症月間のお知らせ」）これを増刊号的に配信する

▼実際のメール配信の内容及びスケジュール

配信時期	タイトル	内容
2020年 9月10日	見守り関連情報 創刊準備号	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいメール配信の狙い ・日野市で行っている地域ぐるみの支え合いの仕組み ・コロナ禍での悩み事や対策のアイディアの募集
9月18日	9月は「認知症を知る月間」です！	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関するパネル展示 ・座談会「認知症の方をこれから地域でどう支えるか」 ・「認知症サポーター養成講座」
12月23日	コロナ対策に関する情報発信① 「濃厚接触者」の定義を知って感染対策と見守り・声かけの両立を！	<ul style="list-style-type: none"> ・濃厚接触者とは ・覚えていただきたいポイント
2021年 1月25日	コロナ対策に関する情報発信② コロナ禍で高齢者の生活はどう変化した？（市内アンケート調査の結果より）	<ul style="list-style-type: none"> ・質問①暮らしや体調等への影響の回答 ・質問②新たに行っていること、工夫していることの回答 ・質問③今後あると良い活動やサービスの回答
2月22日	コロナ対策に関する情報発信③ 人が集まる活動を上手に再開する方法は？	<ul style="list-style-type: none"> ・3密を避けるため外へ！ ・活動の前後に潜む感染リスクに注意！

▼実際の配信内容（左：HTML形式、右：テキスト形式）

【見守り関連情報】 2020.12.23号
～コロナ対策に関する情報発信①～

**「濃厚接触者」の定義を知って
感染対策と見守り・声かけの両立を！**

「濃厚接触者」とは
近所付き合いの中では感染者と以下のような接触をした方が該当します。

- ・「発症の2日前から隔離されるまでの期間」に
- ・「1m以内」かつ「マスクなし」かつ「15分以上の会話等」の接触

[もう少し詳しい情報を知りたい方はこちらをご覧ください](#)

覚えていただきたいポイント

- ・「マスクをし玄関先や路上でちょっと立ち話」は○
- ・「発熱や咳等の症状が出ていないから大丈夫」は×

[「他の場合はどうか」の質問はこちらにお寄せください](#)

日野市役所 健康福祉部 高齢福祉課
在宅サービス係 見守り支援ネットワーク事業担当
TEL：042-514-8496 Mail：kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp

★本メールに関するご意見やご質問は[こちら](#)から
★本メールの配信停止は[こちら](#)から

【見守り関連情報】 2020.12.23号
～コロナ対策に関する情報発信～

「濃厚接触者」の定義を知って感染対策と見守り・声かけの両立を！
「濃厚接触者」とは
近所付き合いの中では以下が該当します。
・感染者と「発症の2日前から隔離されるまでの期間」に
・「1m以内」かつ「マスクなし」かつ「15分以上の会話等」の接触をした方

覚えていただきたいのは…
・「マスクをして玄関先や路上でちょっと立ち話」は
・「発熱や咳などの症状が出ていないから大丈夫」は×

より詳しい情報が知りたい方はこちら
<http://www.city.hino.lg.jp/fukushi/kourei/torikumi/1016001.html>

日野市役所 健康福祉部 高齢福祉課
在宅サービス係

ご意見やご質問はこちら
<https://forms.gle/H3oXM4WBuFYZ4bTf8>
見守り関連情報の配信停止はこちら
<https://onl.tw/vUvGAN6>

2 - 2 - 2 意欲の高い人の掘り起こし

(1) 取組の概要

前項のような、誰でも気軽に参加できることを狙った“気かけ”の意識付けを行うだけでなく、見守り支援ネットワークに対してもう一歩踏み込んだ協力をしていただける方＝新しい担い手の確保にも取り組んでいます。

令和2年度は特に、コロナ禍において地域で孤立しがちな高齢者を支えることが喫緊の課題となっていたことから、『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』を立ち上げて、これに対応する活動を地域で新たに始める／継続する団体への支援を行いました。

▼『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』の概要

趣 旨	○高齢者支援の「新しい生活様式」が地域に広がることを目指して、新型コロナウイルスへの対策を講じながら、地域で孤立しがちな高齢者をささえ・つながる活動を新たに始める／継続する団体を対象に、活動に必要な経費を助成する
補助金額	○1 事業あたり最大 15 万円（対象経費の 100%を補助）
応募者の条件	2名以上で構成される以下のような活動団体（1 団体あたり 2 事業まで応募可） ○自治会、老人クラブ、PTA、民生委員、学生などの地域の活動団体 ○高齢者の居場所づくりに携わっている方（サロン運営者など） ○地域包括支援センター、介護事業者など高齢者に対するサービスを行っている事業者など
対象となる活動	新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、市内に暮らす高齢者に対する支援を行う活動（高齢者以外も支援対象に含んでもOK） ○例えば、接触を回避しながら交流する活動（ふれあう） －手紙やノート、掲示板等を介した交流 －電話やスマートフォン、タブレット等の情報機器を活用した交流 －在宅生活の寂しさを和らげる花や野菜の苗木の配布を通じた交流 等 ○例えば、適切な距離を保って／感染防止策を講じて交流する活動（ふれあう） －一定の距離を保った上で行う青空体操、青空サロン、農作業等の共同作業 －マスクや消毒液の用意、その他の対策を行った上でのサロン活動の再開 等 ○例えば、その他の困りごとを支援する活動（ささえあう） －買い物の手伝い、料理のおすそ分け －おすそ分けの品でオンライン昼食会 －おうちで介護予防に取り組むためのおもりの配布 等

(2) 取組の実績

第1回目の緊急事態宣言の解除後に『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』を立ち上げ、6月に広報を開始しました。

7月1日から21日までの募集期間に全43事業の応募があり、選考の結果、以下の25事業を対象に支援を行いました。

▼補助金交付団体の一覧

No.	団体名	事業名
1	地域包括支援センター多摩川苑	地域と「つながる・動く・広がる！」～新型コロナ禍でもできること
2	落川交流センター	高齢者の「あおぞら交流」
3	地域包括支援センターすてっぷ	高齢者のスマホ教室 in 豊田
4	下田自治会	高齢者層におけるスマホ・コミュニケーション拡大
5	ギターグレイセス	高齢者ギター演奏市民サークル
6	ほどくぼ駅周辺を考える会	あきち de サロン
7	一般社団法人 Rapport	コロナに負けない！フレイル予防
8	明星地区・つながりの家「アムール」	地域密着「アムール新聞発行」高齢者向けIT教室開催
9	高幡台団地プロジェクト	高幡台団地あおぞら上映会
10	ふれあいサロン「ひだまり」	高齢者の買い物代行事業
11	万願寺自治会	タブレットPCでのコミュニケーション
12	西宮下自治会	高齢者スマホ使い方講習会
13	メロディアス	青空うたごえ広場
14	平山一丁目自治会	ふれあいプロジェクト
15	浅川リバーハウス	地域の外出できないシニアを元気に！高齢者支援型オンラインサロン・セミナー開設
16	谷中山連合自治会	みんなでピンポン・お花いっぱい事業
17	三中地区アクションプラン	三中地区繋がる見守る促進事業
18	グリーンクローバー	みんなでチャレンジ！「新しい多世代交流」toyo-1
19	クライン・ガルデン(小さな畑)グループ	みんなで野菜を育てよう事業
20	百草団地ふれあいサロン	百草団地ふれあいサロン山野草観察ウォーキング
21	マリーゴールド 英語で歌おう！	Let's Sing At Home!(家で英語で歌おう！)
22	平山住宅自治会	平山住宅青空体操事業
23	高幡台団地自治会	高幡台団地自治会「手と手の会」
24	元気の会滝合	これからの高齢者に必要な”デジタル”実践的スマホ教室
25	滝合写真・絵画の会	コロナに負けない元気な滝合の歴史写真・絵画展

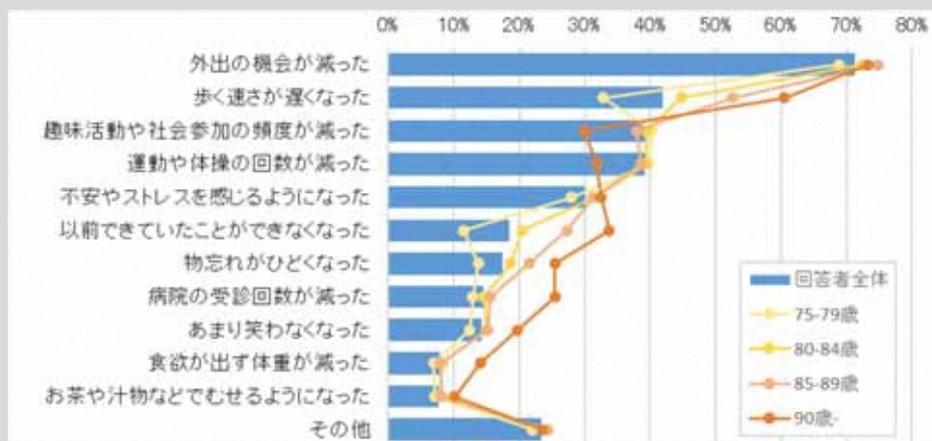
コラム 新型コロナウイルスの高齢者の生活への影響

高齢福祉課では、コロナ禍で高齢者の皆様の生活にどのような影響があったのかを把握し、お一人一人への支援や、市及び地域包括支援センター等の今後の事業のあり方について検討することを目的として、アンケート調査を実施しました。

ここでは調査から見てきた傾向と課題をご紹介します。

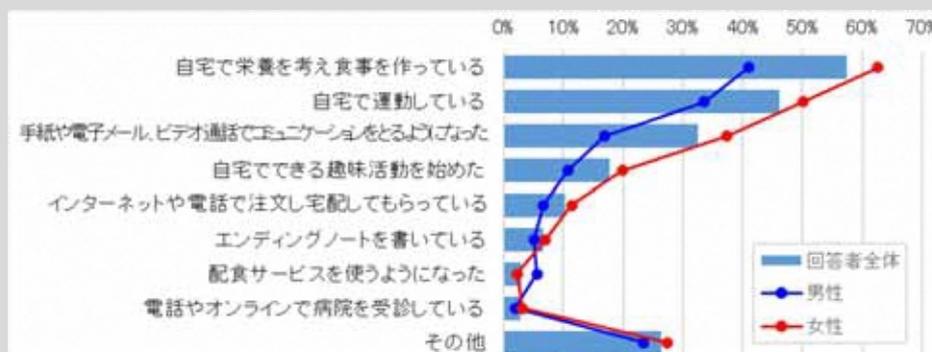
▼自粛生活の中での暮らしや体調、気持ちの変化

～高齢者の行動が大きく変化／心身の機能も低下傾向～



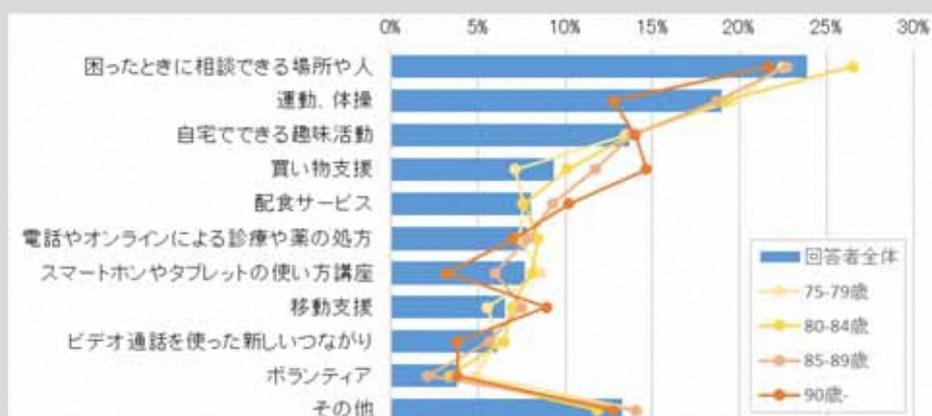
▼新たに行っていること、工夫していること

～自宅で心身の健康に留意して生活している方が多い～



▼今後あると良い活動やサービス

～まず相談できる場や人+減ってしまった運動等を補いたい～



2 - 2 - 3 既存の取組・団体の活性化

(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークは、地域での支えあいを基本とする見守り支援を展開してきましたが、コロナ禍でこれまでと同じように活動するのが困難となりました。

“活性化”とは若干視点は異なりますが、令和2年度は第1章に掲載する各取組について、新型コロナウイルスに対応した「新しい生活様式」への対応を模索することになりました。

▼取組の内容

取組項目	概要
「見守り・声かけ」	<ul style="list-style-type: none">・ニュースレター（第36号）による情報提供・ICT・IoTを活用した見守り支援に関する情報収集を実施（3-2-3 参照）
ふれあいサロン	<ul style="list-style-type: none">・閉室期間中のふれあい交流を支援するホワイトボードの配布・サロン活動等を実施する団体の交流会の開催（1-2-3 参照）

(2) 取組の実績

「これまでと同じように見守り・声かけを行っても大丈夫か」というふれあい推進員さんの不安を解消するため、地域包括支援センターによる個別のフォローアップに加えて、以下のような情報提供を行いました。

コロナ禍の新しい生活様式として推奨されるオンライン・リモートに対応した新しい見守り方法として、ICT・IoTを活用した見守りツール等に関する事例の収集・整理も行いました。(3-2-3参照)

▼ニュースレター（第36号）による情報提供

- ◇ ニュースレターの中では、「さりげない見守り」をキーワードに行う週に1回程度の「見守り」、「お互いが心地よい関係づくり」をキーワードに主に玄関先で行う月に1回程度の「声かけ」というふれあい見守り推進員さんの活動は問題ない旨を以下の通り記載しています。
- ◇ この他にもメール配信の中で、“「マスクをし玄関や路上でちょっと立ち話」は〇”という説明を行っています。

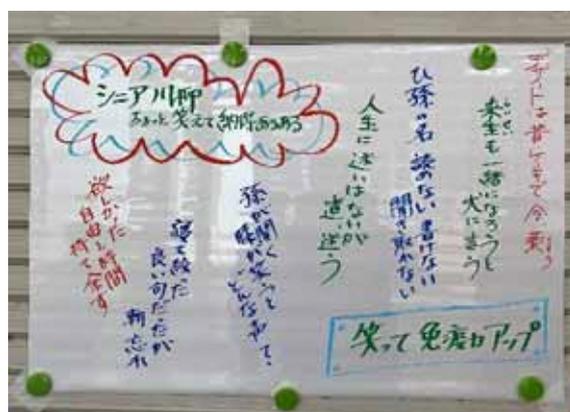


「感染を恐れて一步も外に出ていない方々心配」「閉室期間中にもお客さんと交流を続ける方法はないか」というふれあいサロンの声に応じて、希望のあったサロンには伝言板等として活用できるホワイトボードの提供を行いました。

緊急事態宣言が解除された後も、一部のサロンではサロン内での感染を心配して、活動を自粛するところも見られたため、コロナ禍でも工夫して地域の交流・支えあい活動を行っている活動団体（『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』の交付団体等）と情報交換をできる場を設けました（1-2-3参照）。

▼閉室期間中のふれあい交流を支援するホワイトボードの提供（写真は再掲）

- ◇ 緊急事態宣言の期間中、サロンが開けられない代わりに、希望のあったサロンにホワイトボードを提供し、情報発信やリモート交流を図る伝言板として活用していただきました（1-2-3のコラム参照）。



2 - 3 今年度の取組の達成状況と次年度の対応案

各取組の実施状況を踏まえて今年度の成果と課題、今後の対応案を以下の通り整理しました。

▼成果・課題

<p>成果</p>	<p>《一般市民への“気かけ”の意識付け》</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまで準備を進めてきたメール配信を開始することができました。 • メール配信は、気軽に集まらない・顔をあわせづらい状況の中でも市民の方々に働きかけを行うことができるため、凶らずもコロナ禍にも対応した取組となりました。 • メール配信の内容については、検討部会での検討を踏まえて、HTML形式の作成や、メール配信にあわせた詳細情報の提供（WEBページの作成）といった改善を図っています。 <p>《意欲の高い人の掘り起こし》</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍において地域で孤立しがちな高齢者を支えることを目的に、『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』を立ち上げました。 • この補助金を通じて、地域で熱心に活動する団体との関係構築や、新しい活動団体の掘り起こしを図ることができました。 <p>《既存の取組・団体の活性化》</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍という例年とは大きく異なる状況の中で、「新しい生活様式」への対応という課題にある程度柔軟に対応することができました。
<p>課題</p>	<p>《一般市民への“気かけ”の意識付け》</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍という状況を考慮して、現在はコロナを入口にした情報提供を行っているため、もともとの目的である“気かけ”の意識付けや見守り支援ネットワーク事業への誘導については、まだ十分にできていない状況です。 • 運用面では、配信時期が不定期となっている、HTML形式のメールがガラケーに届いている、WEBフォームを通じたご意見ご要望の収集が思うように進んでいないといった改善点もあります。 <p>《意欲の高い人の掘り起こし》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』は国の補助金を活用して緊急的に立ち上げた事業であるため、こうした活動を各地域で継続していただくこと、他の地域にも展開できるよう支援していくことが今後の課題です。 • 新たな活動団体との関係構築が進んだ一方、既存の取組の協力者の獲得にはつながっていません。特にコロナ禍で人との接触が避けられる傾向にあることを考えると、既存の取組の協力者となっていただけのような意欲の高い人を掘り起こすためには新たな働きかけが必要となることが想定されます。 <p>《既存の取組・団体の活性化》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 取組の方向性が例年とは大きく異なる状況となり、前年度に開始した「ふれあいサロン体験ツアー」等の取組を継続することができませんでした。 • コロナ対応については、手探りでの取組であったため、十分な情報提供や支援を行うことができず、ふれあい見守り推進員やふれあいサロンスタッフの方々に負担をかけることになってしまいました。

▼対応案

対応案	<p>《一般市民を対象にした“気かけ”の意識付け》</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍に対応したタイムリーな情報提供と、コロナ後の見守り支援ネットワークへの誘導の双方をにらんだ配信スケジュールを作成し、計画的なメール配信に努めます。・メール配信の改善につなげるため、双方向型のコンテンツを作成し、登録者からのご意見、ご要望の収集を図ります。 <p>《意欲の高い人の後押し》</p> <ul style="list-style-type: none">・『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』を通じてコロナ禍に対応した活動に対する支援を継続しながら、こうした活動団体に関する情報の収集や発信に取り組みます。・既存の取組の協力者の獲得については、コロナ禍がすぐには収束しないことを踏まえて、ICT・IoTを活用した見守り等の代替策を含め必要な対応を検討します。 <p>《既存の取組・団体の活性化》</p> <ul style="list-style-type: none">・既存の取組・団体の活性化についても、コロナ禍への対応を最優先に、今年度不足していた情報提供や支援の充実を図ります。・特にふれあいサロンについては、心配でサロンを開けない方々が安心して活動ができるような後押しを行うとともに、活動を再開しているサロンについても変異型ウイルスが流行している現状を踏まえて、改めて活動内容を点検できるような機会の提供を検討します。（再掲）
-----	---

第3章「ネットワーク運営に関するその他の支援」

3 - 1 取組の概要

個別の取組（第1章）やより良いネットワークの構築に向けた新しい取組（第2章）を進めるために、参考となる情報を収集し、然るべき場で検討を行った上で、関係者への働きかけを行うという流れを毎年実施しています。

この作業の中心となるのが、事項で紹介する「見守り支援ネットワーク検討部会」です。

▼現在実施している取組

作戦本部的な機能を持つ検討部会の開催



「ニュースレター」による事業PRの実施



他自治体の先進事例や国、都の動向の検討調



3 - 2 各取組の実施状況

3 - 2 - 1 検討部会の開催

(1) 取組の概要

「見守り支援ネットワーク検討部会」は、見守り支援ネットワークの作戦本部的な機能を持つ場として平成26年度に立ち上げた会議です。メンバーは地域包括支援センターと高齢福祉課で構成し、見守り支援ネットワークの活動方針を検討するほか、各地域の取組状況の共有などを行っています。

令和2年度は特に、これまで準備を進めてきた「メール配信」を開始するにあたってその基本的な方向性や改善点について検討したほか、新型コロナウイルスに対応した活動のあり方など例年とは異なる内容についても検討を行っています。

また、新型コロナウイルスの感染をするため、開催時期の調整やオンラインでの開催等の対策も行っていきます。

▼実施スケジュール

開催時期	取組項目	内容
2020年 8月27日	2020年度第1回見守り支援ネットワーク検討部会	<ul style="list-style-type: none">• 気にかけてメール配信について• 既存の取組のコロナ対応について
11月17日	2020年度第2回見守り支援ネットワーク検討部会	<ul style="list-style-type: none">• 気にかけてメール配信の配信計画について• ちょこっと困りごとサービスの見直しについて• ICT・IoTを活用した見守りについて（方針検討）
2021年 1月29日	2020年度第3回見守り支援ネットワーク検討部会	<ul style="list-style-type: none">• ICT・IoTを活用した見守りについて（サービス紹介等）• 気にかけてメール配信の配信計画について• ちょこっと困りごとサービスの見直しについて

(2) 取組の実績

2020年度は、以下の通り計3回の検討部会を開催し、第1章、第2章に掲載する内容について各種の検討を行っています。

▼2020年度第1回見守り支援ネットワーク検討部会

開催日時	8月27日(木) 10:00-12:00
開催場所	日野市役所 101 会議室
参加者	<包括支援センター> : 9 包括の相談員 計 11 名 <事務局> : 日野市高齢福祉課、委託事業者 計 6 名
プログラム	0. 開会 【報告事項】 1. 高齢福祉課からの報告 2. 各包括の活動状況等の報告 【検討事項】 1. 気にかけてメール配信について ①配信準備の進捗状況 ②今後の配信計画 2. 既存の取組のコロナ対応について ①ふれあい見守り推進員、ふれあいサロン ②その他の取組 3. その他
議事概要	1. メール配信を開始するにあたって、配信内容について検討を行い、以下のような方針を確認した。 - ガラケーの方が見やすいようボリュームをコンパクトにする - 登録者からの反応を見ながら適宜内容の調整を図る 2. 見守り支援ネットワークの既存の取組について、新型コロナウイルスの影響や今後の課題について意見交換を行った。 3. 第4期高齢者福祉総合計画の策定にあたって見守り支援ネットワークにおいて重点的に進めるべき取り組み等について意見交換を行った。 4. ICT・IoT を使った見守りについて、今後検討を進めるにあたって配慮すべき以下のような事項を確認した。 - 異変を発見した場合の対応を推進員にお願いするのは難しい - (問題はあるが)「連絡を受けられる人がいること」が利用条件となる

▼2020 年度第 2 回見守り支援ネットワーク検討部会

開催日時	11 月 17 日（火） 10：00～12：00	
開催場所	市民活動支援センター 2F	
参加者	<包括支援センター>：9 包括の相談員 <事務局>：日野市高齢福祉課、委託事業者 <その他>：東電パワーグリッド	計 12 名 計 5 名 計 1 名
プログラム	0. 開会 【報告事項】 1. 高齢福祉課からの報告 2. 各包括の活動状況等の報告 【検討事項】 1. 気かけメール配信の配信計画について 2. ちょこっと困りごとサービスの見直しについて 3. ICT・IoT を活用した見守りの検討について 4. その他	
議事概要	1. 東電パワーグリッドより、家電の使用状況により離れて暮らす家族を見守るサービス「遠くても安心プラン」に関する情報提供があった。 2. 高齢福祉課より、はつらつ・あんしん調査の調査結果の提供及び第 4 期高齢者福祉総合計画の検討状況について報告を行った。 3. 「気かけメール配信」の配信内容を検討し、スマートフォン等に対応した HTML 版を新たに作成することを決定した。 4. 「ちょこっと困りごとサービス」の見直しの方向性について、質疑応答や意見交換を行った。 5. ICT・IoT を活用した見守りの導入にあたって検討すべき事項として、以下のようポイントがあることを確認した。 ー 日常的な生活状況の把握より、もしもの時の異変発見に活用したい ー 公的な取組としては重点的に見守りが必要な人を対象に展開するのが良い（ひとり暮らしや身寄りのない方など） ー 導入にあたっては「異変があった時にどう対応する」の仕組みが必要 ー ご近所の見守りを補うようなうまい使い方を考えることが重要（結局、隣のおじいちゃん等からの電話が一番頼りになる） ー こうしたサービスが今ひとつ流行らないのはなぜかを考えることが必要	

▼2020 年度第 3 回見守り支援ネットワーク検討部会

開催日時	1 月 29 日（金）9：30～12：00	
開催場所	ビデオ会議（ZOOM）	
参加者	<包括支援センター>：9 包括の相談員 <事務局>：日野市高齢福祉課、委託事業者 <その他>：ヤマト運輸、KDDI	計 10 名 計 5 名 計 5 名
プログラム	0. 開会 【報告事項】 1. 高齢福祉課からの報告 2. 各包括の活動状況等の報告 【検討事項】 1. ICT・IoT を活用した見守りについて 2. 気かけメール配信の配信計画について 3. ちょこっと困りごとサービスの見直しについて 4. その他	
議事概要	1. 高齢福祉課より、セブン・イレブンと見守りに関する協定を締結する予定であることを報告した。 2. ヤマト運輸より、令和 2 年度から日野市内でサービスを開始した「あんしんハローライトプラン」に関する情報提供があった。 3. KDDI より、多摩平地域でテストしている音声対話型見守りツールのプロトタイプに関する情報提供があった。 4. 市民に対する情報発信に関連して以下の内容を確認した。 ー見守りメール配信の今後の配信内容や留意点 ーニュースレター第 37 号の記載内容及び配布時期 5. 八王子市「住民主体による介護予防・生活支援サービス事業」の事例を確認しながら、新しい「ちょこっと困りごとサービス」の担い手のイメージ等を検討した。 6. コロナ禍でも地区毎の情報交換等を継続的に実施するため、地区連絡会のオンライン開催に必要な以下のような条件を確認した。 ー民生委員に対する事前研修等を実施する必要があるか ー地域包括支援センターへの支援（Zoom アカウントや端末の確保等）も必要	

3 - 2 - 2 事業PRの実施

(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークは、社会的にも孤立しがちな高齢者を地域での支えあいを通じ見守り、支援することによって「安心していきいきと暮らせるまち」づくを目指すものです。こうした支えあいには市民の理解と協力が不可欠であることから、事業開始当初から「ニュースレター」を発行して、現在の取組内容の報告や市内外の活動の紹介などを行い、見守り支援活動に関する理解の促進と普及啓発を図っています。

2019年度は、この「ニュースレター」を合計3号作成・配布しました。

「ニュースレター」の配布場所は以下の通りです。

- ◇ 図書館、公民館、郷土資料館、市民会館やふれあいホール等の文化施設
- ◇ 集会施設や福祉センター等の地域住民が集まる施設
- ◇ 生活保健センターや支所、社会福祉協議会等の公的機関の窓口 など

今年度はこの他に、見守り関連情報のメール配信を開始し、メールの配信にあわせた市HPへの関連情報の掲載や、日野市公式LINEでの情報発信にも取り組んでいます(2-2-2参照)。また、協力事業所の紹介資料に掲載する情報を更新するのにあわせて、その他の事業所向けに新規登録を勧める文書を作成し、これを資料の裏面に配置するという改善を行いました。

▼事業PRの実施内容

発行／開催時期	取組項目	内容
2020年 7月	ニュースレター第36号の作成	・こんな時だからこそ“気かけ”を！
2021年 3月	ニュースレター第37号の作成	・「見守り関連情報」をEメールでお知らせする取組を始めました！
2021年 4月(予定)	ニュースレター第38号の作成	・コロナ禍の取組を振り返る交流会を開催しました！
2020年 8月	協力事業所紹介資料の更新 (地域包括支援センター担当地域毎)	・見守り支援に協力していただいている協力事業所を紹介 ・裏面では、協力事業所への新規登録を勧めるため協力事業所の役割等を紹介

(2) 取組の実績

令和2年度のニュースレターでは、コロナ禍において見守り支援の取組を展開するために必要な情報発信を行いました。各号の内容は以下の通りです。

協力事業所紹介資料については、登録する事業所が増えて紙面に収まりきらない地域も出てきていたため、レイアウトの刷新を行いました。一部地域の例を（ ）頁に紹介します。

▼ニュースレター第36号の概要

発行時期	2020年7月
内 容	特集「こんな時だからこそ“気かけ”を！」 <u><表面/1頁></u> ・地域でささえる・つながるプロジェクト補助金の紹介 <u><見開き/2・3頁></u> ・「新しい生活様式」に則った見守り支援活動のイメージ <u><裏面/4頁></u> ・地域でささえる・つながるプロジェクト補助金の概要（詳細説明）

▼ニュースレター第37号の概要

発行時期	2021年3月
内 容	特集「見守り関連情報」をEメールでお知らせする取組を始めました！」 <u><表面/1頁></u> ・登録のお願い ・メール配信の登録方法 <u><見開き/2・3頁></u> ・“見守り関連情報”で配信するメールの内容を少しだけご紹介します <u><裏面/4頁></u> ・日野市のその他の情報発信のご紹介

▼ニュースレター第38号の概要

発行時期	2021年4月（予定）
内 容	特集「コロナ禍の取組を振り返る交流会を開催しました！」 <u><表面/1頁></u> ・サロン活動等活動団体交流会の開催概要の紹介 <u><見開き/2・3頁></u> ・「サロン活動等活動団体交流会」参加団体の活動概要の紹介 <u><裏面/4頁></u> ・コロナ禍で高齢者の生活はどう変化した？（コロナアンケートの結果の紹介）

▼ニュースレター第36号の内容

地域でささえる・つながるプロジェクト補助金の概要

応募者の条件

2名以上で構成される以下のような活動団体が対象となります。ただし、専ら趣味や娯楽がメンバーに営まれる団体、政治・宗教活動を行っている団体には補助金は交付できません。

- ▶ 自治会、老人クラブ、PTA、民生委員、学生などの地域の活動団体
- ▶ 高齢者の居場所づくりに関わっている方（サロン運営者など）
- ▶ 地域包括支援センター、介護事業者など高齢者に対するサービスを行っている事業者など

対象となる活動

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、地域で孤立しがちな高齢者をささえる・つながる活動が対象となります（高齢者以外も支援対象に含んで構いません）。

- ▶ 密利を目的とする活動や、友人同士の集まりなど一般の地域住民が自由に参加することができない活動は対象外となります
- ▶ 既に活動を始めていた/再開していた場合でも、以下の条件に合致する場合は本補助金の応募以前にかかった経費について遡って助成することが可能です



応募方法

補助金の応募に関して、補助金の使途など上記の他にもいくつか条件を定めています。まずは、以下の場所から「応募の手引き」と応募書式を入手して、その内容をご確認ください。

<日野市ホームページ>

- ▶ 「日野市 地域でささえる・つながる」で検索 または 右のQRコードからアクセス
- ▶ Web ページ下部にある「添付ファイル」をダウンロードしてください



<日野市役所窓口>

- ▶ 神保 1-12-1 市役所 2 階 高齢福祉課窓口までお越しください（連絡先は下記参照）

日野市高齢福祉課在宅サービス係(高齢者見守り支援ネットワーク担当)

電話：042-514-8496（直通） / FAX：042-583-4198
E-mail：kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp

(※) このお知らせは再生紙を使用しています。このお知らせを廃棄するときは、資源ゴミとして出してください。

日野市高齢者見守り支援ネットワーク ニュースレター 第36号 2020年7月

こんな時だからこそ“気かけ”を！

これまで高齢福祉課では“住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまち”を目指して、地域での見守りや声かけ、サロン等の活動を推進してきました。今回、新型コロナウイルス感染症の流行によりやむを得ず活動の休止をお願いすることになりましたが、休止期間中にこうした活動の重要性を再認識した方も多いのではないのでしょうか。

緊急事態宣言は先ごろ解除されましたが、自分と相手の健康を守るため、引き続き感染拡大の防止に努めなければなりません。

今までと同じように活動するのが難しい状況が続きますが、「お互いを気にかける」という活動の原点に立ち返って、「新しい生活様式」に則った見守り支援の方法を考え、皆でこの困難を一緒に乗り越えていきましょう！

新型コロナウイルスに負けずに、地域で高齢者をささえる・つながる活動を行う団体を支援します

令和2年4月1日から令和3年3月末に行われる活動を対象に、各種の活動経費を助成する『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』（令和2年度限定事業）の対象団体を募集しています。

▶ 裏面に補足情報あり



補助金額	1事業あたり最大 15万円	1団体あたり2事業まで応募が可能
募集期間	【第1次募集】令和2年7月1日(水)～21日(火)	
	※1次募集の終了後も予算の範囲内で随時応募を受け付けます	

「新しい生活様式」に則った見守り支援活動のイメージ

感染拡大防止のポイント

(下記の中央：各相手と2m以上)

- ▶ 「3つの密」の回避：換気の悪い密閉空間×、多数が集まる密集場所×、間近で会話や発生をする密接場面×
- ▶ 手指衛生：まめな手洗い、共同で使う物品の消毒など
- ▶ 咳エチケット：マスクの着用、咳やくしゃみをする際口や鼻をおさえるなど



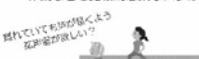
例えば、家の周りを散歩するついでに...

- ・一定の距離を保ってご近所と挨拶や世間話
- ・外からご近所の様子を気にかけて、見守る



例えば、活動場所の施設を飛び出して...

- ・3密を避けづらい施設等を利用する代わりに、屋外でできることを考えるのも1つの対策です。
- ・公園等で健康体操を行う（熱中症に注意！）
- ・ウォーキング、高空サロン、市民農園での共同作業なども比較的感染リスクが管理しやすい



これらのポイントを踏まえて

例えば、きちんと対策をすれば...

- ・施設等に集まって交流する場合、以下のように対策を講じるようにしましょう。
- ・参加者の体調の確認（感染者との接触を避ける）
- ・参加者へのマスクの着用をお願い
- ・皆が手を洗える場所、共有する物品の消毒
- ・部屋の換気（エアコン使用中も定期的に窓等を開ける）
- ・密集や対面を避ける会場の選択や配置の工夫
- ・飲み物を出すときは紙コップを使用する 等
- ※その他、活動内容に応じた対策を高齢者HPや首相官邸HP、東京都の感染拡大防止チェックシートなどの情報を参考に検討してみてください



再び外出自粛の要請があった場合の備えにもなります

例えば、離れていてもつながりかたてるように...

- ・手紙や電話で「お元気ですか」の呼びかけを行う
- ・テレビ電話やWeb会議ツールを使って“オンラインサロン”や“オンライン歌の会”などを開催する
- ・在宅生活の楽しさを和らげる花や野菜の苗を配布する（成長具合や料理レシピ等の情報交換を通じて交流）



例えば、外出できず困っている方には...

- ・買い物に代わける際はご近所に声をかける（買い物のお手伝い）
- ・「ひの健康サポート体操（ひの筋トレ）」のDVDとおもちゃを地域の高齢者に配布する（自宅で介護手前に取り組みお手伝い）

「こうした活動を実践したい」という方、「もっと良いアイデアを考えている」という方は、是非『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』の活用をご検討ください！

▼ニュースレター第37号の内容

日野市のその他の情報発信のご紹介

日野市では、他にも様々な手段で市民の皆さまに必要な情報をお届けしています。普段利用する機会が多いツールでブックマークや友だち登録等をご検討ください。

日野市役所ホームページ (<http://www.city.hino.lg.jp/>)

皆さまご存じの日野市公式ホームページでは、現在、新型コロナウイルス感染症に関する日野市からのお知らせや、国や都の関連情報をすぐに確認できるようになっています。

<新型コロナウイルスに関する情報を知りたい時は…>

- ① Webブラウザで「日野市公式ホームページ」を表示 (上記のURLを入力 または「日野市」を検索)
- ② トップページに表示された右のボタンをクリック

日野市LINE公式アカウント (@hinocity)

日野市の施策や事業に関する情報のほか、緊急時の情報、生活に関する情報、市政に関するアンケートなど様々な情報をお届しています。一度「友だち」に登録すれば自動的にお知らせが届くので、既にLINEを使っているという方は特にお勧めです。

<LINEで情報を受け取る(「友だち」登録をする)には…>

- ① LINEアプリを起動して「友だち追加」ボタンをクリック または スマートフォンのカメラを起動して心のQRコードを読み取る
- ② 表示された「検索」画面で「検索する」をクリックして検索完了
- ③ その後、登録情報を決定する(「はい、今登録します。」を選択)することで、必要な分野の情報だけを選んで受け取ることもできます

<こんなお知らせがより届きます>

新型コロナウイルス対策の開催について市長からのメッセージ動画を公開しました。

以下URLからご覧ください。
https://youtu.be/493_23j9po

【中央公民館】の市民大学美術女子大学連携講座「塗り絵」の開催について開催要項を公開しました。

【1月31日まで】PlayPlayで日野市で面白い物！最大30%オフ(各ジャンル別)！
キャンペーンお楽しみギフトがプレゼント！買ったらポイントも日野市の活動で使う市内事業者も応援しよう！

※ご利用の際は感染リスクの低い行動を避けたいことと、具体的な開催の場、マスクの着用、半日・半角消毒などの基本的な感染対策の協力をお願いします。
<http://www.city.hino.lg.jp/syosaku/kuhaku/kuhaku1015617.html>

一例は、イベントの開催案内

ニュースレターに関するご連絡・お問い合わせはこちらまで

日野市高齢福祉課在宅サービス係(高齢者見守り支援ネットワーク担当)
電話：042-514-8496(直通) / FAX：042-583-4198
E-mail：kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp

(※) このお知らせは再生紙を使用しています。このお知らせを廃棄するときは、資源ゴミとして出してください。

日野市高齢者見守り支援ネットワーク ニュースレター 第37号 2021年3月

登録をお願いします！

「見守り関連情報」をEメールでお知らせする取組を始めました！

高齢福祉課では、認知症高齢者が行方不明になってしまった場合に、行方不明者の特徴等をお知らせする「日野市行方不明者情報メール」を運用していますが、このたび、この「日野市行方不明者情報メール」の中で「見守り関連情報」も定期的に配信することになりました。

まだ登録されていない方は、是非 **以下より登録をお願いいたします。**

見守り・気にかける対象を“認知症を発症した方”が“行方不明になった場合”だけに限定せず、広く「高齢者の見守り」に役立つ情報もお知らせするのが狙い

現在は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、コロナ禍での見守り・気にかけることについて特集したメールを配信しています。

メール配信の登録方法 (登録者 = 見守り・支えあいの協力者 募集中！)

以下の①～③の手順で簡単に登録することができます。

<登録の手順>

- ① 右のQRコードから登録画面を表示
- ② 情報を受け取るメールアドレスを入力して「確認」を押す
- ③ 日野市から登録完了をお知らせするメールが届いたら完了

※1 メール受信にかかる通信料(チケット料金)を除く。内面にはその他の注意事項を記載していますので、あわせてご確認ください。

※2 お手持ちの端末では登録ができない方は、背面の「お問合せ先」へご相談ください

“見守り関連情報”で配信するメールの内容を少しだけご紹介します

「見守り関連情報」の内容

事前に実施した意向調査の結果を踏まえて、以下のような内容を **1～2か月に1回程度の頻度で登録者の皆さまにお知らせ**します。

- 見守り活動に関するワンポイントアドバイス
- 市内外の優れた取組の紹介
- 時々の注意事項やイベントの開催案内等の有用情報

※3 この他に、認知症高齢者が行方不明になってしまった場合に、症状の予がけとなる行方不明者の特徴等をお知らせする「行方不明者情報」が届けます。

直近の配信内容

右でご紹介した2020年12月号以降は、以下のような内容をお知らせしています。

配信計画	主な内容
2021年1月	コロナ禍で高齢者の生活はどう変化した？ (市内高齢者へのアンケート調査の結果概要を紹介)
2021年2月	コロナ禍の中で人が集まる活動を上手に再開する方策は？ (3密を避けるために屋外に活動の場を移した団体を紹介)
2021年3月(予定)	他の団体はどんな活動をしているの？(仮) (オンラインで活動している団体を紹介予定)

注意事項

- ▶ ご登録いただいた情報は「高齢者行方不明情報メール配信」以外の目的では使用しません。
- ▶ 特定のメールアドレスの「差」指定を設定している方は「kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp」からのメールが受信できるような指定の変更をお願いします(操作方法は市民会館へお問い合わせください)。
- ▶ 配信したメールが連続して届かなかった場合は、自動的に念のため再送信することがあります。
- ▶ 利用条件に関する詳細は、「日野市ホームページ」>高齢福祉課高齢者SOSネットワークにご協力ください。
<http://www.city.hino.lg.jp/hisshi/kourei/sosupport/10038593.html>

実際のメール(2020年12月に配信)の内容は…

- テーマ:「濃厚接触者」の定義を知って感染対策と見守り・声かけの再立を!
- 内 容:濃厚接触者の定義の紹介
見守り等を実施するにあたって覚えていただきたいポイントの紹介

スマートフォンやパソコンにはこちらが届きます 他携帯電話にはこちらが届きます

【見守り関連情報】2020.12.23号
～コロナ対策に関する情報発信～

「濃厚接触者」の定義を知って感染対策と見守り・声かけの再立を!

「濃厚接触者」とは
近所や街中の14歳未満者以下のより接触した方が該当します。

- ・「発症の2日前から発症までの期間」と
- ・「15分以上かつ「マスクなし」かつ「15分以上の会話等」の接触

→ もっと詳しい情報を知りたい方はこちらをご覧ください

覚えていただきたいポイント

- ・「マスクをし会話や声かけを止まらなくていい」は○
- ・「発熱や咳などの症状が出ていないから大丈夫」は×

「他の場合はどうか」の質問はこちらをご覧ください

日野市役所 高齢福祉課 見守り支援ネットワーク係
TEL: 042-514-8496 Mail: sosui_zaitaku@city.hino.lg.jp

※本メールに関するご意見やご質問はご返信から
※本メール4688件宛に届くまでです

【見守り関連情報】2020.12.23号
～コロナ対策に関する情報発信～

「濃厚接触者」の定義を知って感染対策と見守り・声かけの再立を!

- 「濃厚接触者」とは
住所が異なる中で以下が該当します。
・感染者と2日前から発症までの期間に
・「15分以上」かつ「マスクなし」かつ「15分以上の会話等」の接触をした方

覚えていただきたいのは…

- ・「マスクをし会話や声かけを止まらなくていい」は○
- ・「発熱や咳などの症状が出ていないから大丈夫」は×

※より詳しい情報が知りたい方はこちら
=>http://www.city.hino.lg.jp/hisshi/kourei_zaitaku/1016061.html

日野市役所 高齢福祉課 高齢福祉課
在宅サービス係

★ご意見やご質問はこちら
=>sosui_zaitaku@city.hino.lg.jp
※日野市役所高齢者SOSネットワーク
=><http://www.city.hino.lg.jp/hisshi/kourei/sosupport/10038593.html>

もっと詳しく知りたい方のために、メールの配信にあわせて市HPに関連記事掲載するようにしています

今後は、皆さまからの質問に答えたり、リクエストのあった内容を特集したり、皆さまの活動の様子を紹介したり(自薦・他薦を問いません)、ご意見・ご要望、その他の投稿などを反映した情報発信をしてきたいと考えています。

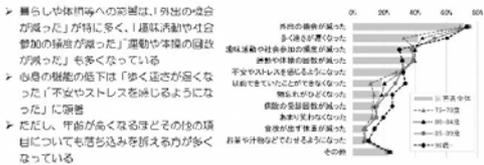
是非、メール配信に登録していただき、メールの最後に記載された「ご意見やご質問はこちら」からご意見等をお寄せください!

▼ニュースレター第38号の内容

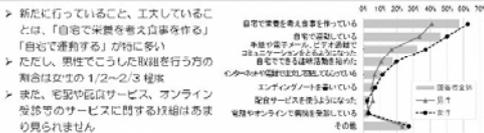
【参考】コロナ禍で高齢者の生活はどう変化した？

市内でひとり暮らしをする75歳以上（うち介護保険未申請）の方へアンケートを実施し、3千人超から回答を得ました。その概要をご紹介します。

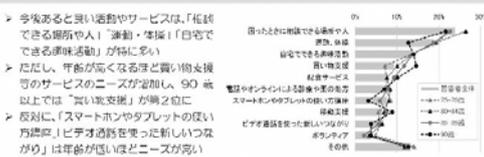
①高齢者の行動が大きく変化/心身の機能も低下傾向が見られる



②自宅で心身の健康に留意して生活している方が多い



③まず相談できる場や人十減ってしまっ運動等を補いたいという声が多い



ニュースレターに関するご連絡・お問い合わせはこちらまで
日野市高齢福祉課在宅サービス係(高齢者見守り支援ネットワーク担当)
 電話：042-514-8498(直通) / FAX：042-583-4198
 E-mail：kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp

(※) このお知らせは再生紙を使用しています。このお知らせを廃棄するときは、資源ゴミとして出してください。

日野市高齢者見守り支援ネットワーク ニュースレター 第38号 2021年4月

コロナ禍の取組を振り返る 交流会を開催しました！

令和2年度は緊急事態宣言からスタートする大変な1年でした(4月7日に7都府県を対象に緊急事態宣言発令→その後、全国に拡大)。

日野市では、5月25日に緊急事態宣言が解除されたことを受けて、6月から順次公共施設等を再開するとともに、7月には「新しい生活様式」に向けた見守り支援等を行う団体を対象に各種の活動経費を助成する『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』を立上げ、25団体への支援を実施しました。

この3月には、上記補助金の交付団体と「ふれあいサロン」を運営する団体の情報交換や交流を目的とする交流会を開催しました。コロナ禍において「地域でささえる・つながる」活動がどのように行われたかを振り返る良い機会となったので、その概要をご紹介します。

サロン活動等活動団体交流会

- 開催日時：3月9日(火) 14時～16時
- 開催方法：感染予防のためオンライン形式(ウェブ会議ツール「Zoom」を使用)と対面形式(市役所会議室が会場)を併用
- 参加団体：29団体(活動団体26、行政機関3)



参加団体の活動概要はこちら
 活動のヒントとなるコロナ禍の高齢者ニーズ等はこちら
 (市からの情報提供の内容)

「サロン活動等活動団体交流会」参加団体の活動概要

交流会に参加した団体のうち、『日野市高齢者「地域でささえる・つながる」プロジェクト補助金』の交付団体からの活動報告を抜粋してご紹介します。各団体の活動内容を踏まえて、「屋外」「インターネット」「課題対応」という3つのテーマに分類していますので、気になるテーマの活動を是非、参考にしてみてください。

①屋外	②インターネット	③課題対応
<p>3密を避けるため屋外に飛び出して活動を展開している方々です。</p> <p>どんな活動をしていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 団地の広場で散歩会を開催しました(定期開催の予定が緊急事態宣言で中止に…) 交流センターの前にスクリーンを立てて、パブリックビューイング等を開催しました。 同団体の公費でラジオ体操を始めました。 地域のいくつかの公園で会の開催をしました。 子どもからお年寄りまでを対象に、街角広場のイベントや室内フェリスラリーを開催しました。 <p>活動の手順や課題を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外での開催は、迷りかたりの人も参加できるというメリットを感じました。最終的に50名近くの人が参加してもらうことができました。 幸いにしてお天気に恵まれましたが、開催日が「雨」が降ったらどうしようかと心配になりました。雨が降ったら開催できない(避難になる)ことが通常の集まりとは違って新しい視点と察しました。 <p>他の参加団体からの質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> 散歩会がとても良いと思ったのですが、録音(フィルム?)はどのように手配したのですか？ 飛立準備同歩道で録音フィルム(16mm)の団体貸出を行っているのを利用して利用しました。 高齢者には椅子等が必要だと思うのですが、どうしたのですか？ 市(地域協議会)から借りました。軽パンを手配し、自分達で市の周辺から購入・運搬を行っています。 	<p>こちらは、物理的な接触なくても交流ができるインターネットに活動の場を見出した方々です。</p> <p>どんな活動をしていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> スマホ講座 スマートフォンに関する様々な操作を講師に指導する講座(複数回開催)を開催しました。 ・内容は電話やメール、ビデオ通話、写真撮影など。 ・講師が話し相手などに困るのを、積極的に使用する各団体の様子(声)も感じました。 ・うちの知恵では大学生に講師をお願いしました。 うちの団体では、サロンにWi-Fiを完備して、スマートフォンを持参した方を対象に、マンツーマンで指導を行う講座を開催しました。 もともと地区センターで開いていた講演会等をオンラインで開催することにしました。 <p>活動の手順や課題を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加希望が多く急遽会場を改めて知りました。 まだできないこともありましたが、参加者はみな一生懸命で、強弱する方も熱が入りました。 最終的にオンラインおしゃべり会を開催することができました。 オンラインで開催することで、遠方の方にも講演会に参加してもらいやすくなりました。 <p>他の参加団体からの質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> 打合せや会議などどのように行っているのですか？オンラインの場合、メンバーの顔で議決方法の決定や周知をどのように進めたのですか？ 打合せ等はLINEを使ってオンラインで開催しています。URLを連絡するだけでメンバーとビデオ通話ができる「LINEミーティング」がお勧めです。 録音のテキストはどのように準備したのですか？ テキストは自分のものを配布しています。現在は、次のステップの資料を作成しているところです。 	<p>地域の課題を踏まえて、この課題に対応した様々な交流あいの活動を展開している方々です。</p> <p>どんな活動をしていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 一息ぶりに集まれる機会をつくる活動 ・地域ののニーズに添える音楽会や内閣の会を開催しました。 ・繰り返した写真・録音を使って地域の歴史を紹介する展示会と語るトークショーを開催しました。 一家から出られない人のちを繋げる活動 ・高齢者の存在を把握して声かけを行っています。 ・地味で買物代行や通院支援を行っています。 様々な工夫で課題の(俳句)を届ける活動 ・入退社員の紹介等を行う「運送」を作成・配布しました。 ・インターネットで端的なライブ録音を見ながら書き込み「リモート俳句会」なども開催しました。 <p>活動の手順や課題を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感度の声をかけてもらったり、アンケート等でも好評をいただいています。 人変な中で「行動を起こせば交流が生まれる。ことを実感しました。 活動一集まる場があることが地域のオアシスになっています。 <p>他の参加団体からの質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> 近頃の活動始めるきっかけ/決め手は何かですか？ 長年取り組んできた挨拶運動や既活動活動をコロナ禍でも続けられたいと考えました。 サロンに来るお客さんから買物を持ってもらえるようになったのがきっかけです。 内分会でアンケートを実施して、「音声が聞き取りにくい」「運動不足」等のニーズを確認しました。 地域のたまり場となる場所ができたので、これをうまく活用する方法を考えました。

▼協力事業所紹介資料（全9地域のうち1地域を抜粋してご紹介／裏面（下）は共通）

このチラシの発行時期 ▶2019年8月 **日野市役所高齢福祉課**

日野市高齢者見守り支援ネットワーク このチラシは多摩川流域地域を対象です

地域の頼れる協力者 **協力事業所大特集!!**

健康・医療機関

14事業所

【万願寺1丁目】
土方クリニック

【万願寺2丁目】
みねざし歯科

【万願寺4丁目】
万願寺駅前整骨院

【万願寺5丁目】
中井内科クリニック

【万願寺6丁目】
山崎好江治療室

【上田】
生沼接骨院

【日野】
斎藤歯科医院
親和薬局 万願荘店
塩谷医院
ファーマみらい 甲州街道駅前店
さつき薬局日野店

【石田1丁目】
富田歯科

【石田2丁目】
にしくクリニック
アイ薬局万願寺店

飲食店
(持ち帰り含む)

3事業所

【万願寺4丁目】
スターバックス日野万願寺店

【万願寺6丁目】
喫茶ひまわり

【日野】
とうふ処三河屋万願寺店

理容室・美容室

3事業所

【万願寺4丁目】
理容室ライム

【日野】
ビューティーサロンK. A. I
The 理容室せんだい

この地域（万願寺、上田、川辺町之内、日野、宮、石田、大字石田（流川北））の高齢者の「総合相談窓口」は…
地域包括支援センター多摩川苑

住所：万願寺 1-16-1
電話：582-1707 Fax：582-1730
開設時間：月～金 9：00～18：00

【協力事業所】とは、地域の高齢者の見守りに協力いただいている商店、事務所、医療機関等の事業所の方々です。業務を通じて高齢者と接する中で、心配な方や気になることがあった場合に地域包括支援センターへ連絡をいただいています。
【協力事業所】の目印として左のようなステッカーを、お店の入口等の場所に貼っていただいています。（全ての『協力事業所』に貼られているわけではありません）

商店
(日用品等販売)

14事業所

【万願寺2丁目】
いなげや万願寺店
ミニストップウエルシア万願寺店

【万願寺3丁目】
ファミリーマート日野万願寺店
ローソン・スリーエフ日野下田店

【万願寺4丁目】
セブンイレブン日野税務署前店

【万願寺6丁目】
Farmer's market 東京みなみの恵み
セブンイレブン日野万願寺6丁目店

【上田】
プラントライフささき

【日野】
スーパーバルク
ファミリーマート甲州街道店
セブンイレブン日野市仲井店

【石田1丁目】
ローソン日野石田1丁目店

【石田2丁目】
セブンイレブン日野石田2丁目店

その他の店舗・事務所等

17事業所

【万願寺1丁目】
ヘルシーネットワーク
至誠した保育園

【万願寺2丁目】
日野市資源リサイクル事業協同組合
日野下田郵便局
万願寺保育園

【万願寺4丁目】
日野衛生公社

【万願寺6丁目】
日野市シルバー人材センター リサイクル事業所
JA 東京みなみ 日野支店

【日野】
日野北郵便局
ミタマヤホンダ
ヤマト運輸 日野万願寺センター
至誠第2保育園
至誠あずま保育園
ピンポン倶楽部

【宮】
日野郵便局（本局）

【石田1丁目】
(株)シルバー
Century21 理想空間株式会社 東京本社

【大字石田】
ヒサジマ住宅設備

※『協力事業所』は相談所ではありません。高齢者の異変を発見した場合、または困ったことがある場合には、『地域包括支援センター』または『日野市高齢福祉課』まで直接ご連絡ください。

市内の事業所の皆さまへ ～高齢者の見守りにご協力をお願いします～

日野市では、業務を通じて地域の高齢者と接する機会が多い事業所の方々に、「協力事業所」への登録をお願いしています。「協力事業所」として以下の取組にご協力いただける場合は、地域包括支援センター（連絡先は裏面参照）までご一報ください！

「協力事業所」の役割等

「協力事業所」にお願いしているのは…

- ▶ 異変等を発見した場合に連絡することだけ
 - ▶ 登録により義務や責任が生じることはありません
- 登録いただいた事業所には、日野市長名で発行する登録証と オリジナルステッカーをお渡しします。また、登録により高齢者に関する総合相談窓口である地域包括支援センターとつながりができることで次のようなメリットもあります。
- ▶ 今後、事業所内で高齢者に関するトラブル等があった場合の対応がスムーズに
 - ▶ 地域包括支援センターでは認知症サポーター養成講座の開催依頼等も受付中

関係機関によるその後の対応イメージ

地域包括支援センターが「協力事業所」から連絡を受けたら…

- 1) まず、連絡をいただいた高齢者のお名前やお住まい等の情報と手元の情報を照合し、必要に応じてお宅を訪問して、状況を確認します。
- 2) 困りごとを抱えている方には、介護保険の申請や病院の受診、その他の保健・医療・福祉サービスやボランティア活動など必要な支援につなげます

※地域包括支援センターは、高齢者の状況把握のため日々地域のお宅を訪問しているため、こうした取組の一環として、どこから連絡があったかを伏せて（連絡があったことを明かすこと）状況を確認することができます。

上記は対応の一例です。以下のように「地域包括支援センター」がスムーズに対応するのが難しいケースもありますので、連絡を行う際はご注意ください。

- 例えば、「名前やお宅が分からない、本人もその場を離れてしまった」というケース
- ▶ 連絡を受けても状況確認ができないため対応が困難となります。可能であれば本人に声をかけて様子を確認してみてください。
- 例えば、「所在がわからずと歩く人がいる」「家の中で人が倒れているようだ」というケース
- ▶ 職員が全員外出して不在の場合などすぐに駆けつけることができないことがあります。緊急の場合は警察、消防への連絡を優先して下さい。

※地域包括支援センターは、地域住民の心身の健康の保持や生活の安定のために必要な援助を継続的に行うために設置される機関で、緊急時に駆けつけることは必ずしも得意な分野ではありません。

こんな時は地域包括支援センターまで連絡をお願いします

お店や事務所の中で《あれっ?》

- ＜高齢者の様子から異変を発見するポイント＞
- ▶ 身なりが整っていない(衣服の汚れや臭い、髪がボサボサ、ちくちくな服装や持ち物)
 - ▶ 定下がおぼつかない/転んでしまう
 - ▶ 同じ商品を何度も/何度も買っている
 - ▶ 声をかけても気づかない/反応が薄い
- など



お客さんと会話をする中で《あれっ?》

- ＜対面でのやり取りから異変を発見するポイント＞
- ▶ 急に元気がなくなった/強い表情をしている(泣いている)
 - ▶ 予約を忘れる/会計やおつりの計算ができない
 - ▶ 同じ事を何度も言う/話がかみ合わない
 - ▶ 以前よりも動作が遅くなった/不自由になった
 - ▶ すり傷やあざなどのけがが増えた
- など



配達等で地域を回る中で《あれっ?》

- ＜家の外から異変を発見するポイント＞
- ▶ 郵便物が溜まっている
 - ▶ 同じ洗濯物が干したまま
 - ▶ 雨なのに窓が開けっぱなし
 - ▶ 庭が荒れている/玄関 窓から見える家の中がゴミだらけ
 - ▶ 家の中から大きな怒鳴り声聞こえる
- など



3 - 2 - 3 先進事例の検討調査

(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークでは、既存の取組の改善や新しい取組の検討を図るにあたって、参考となる他自治体の先進事例や国、都の動向を調査しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、以下の内容について事例調査を行いました。

- ◇ コロナ対応の活動やこうした活動を支援する取組（2-2-2 に関連）
- ◇ ICT・IoT を活用した見守りツール等（3-2-3 に関連）

▼先進事例の検討調査の概要

実施時期	調査項目	調査対象
2020年4月 ～2021年3月	コロナ対応の活動やこうした活動を支援する取組	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍における「新しい生活様式」に合致するような高齢者支援の取組の事例・ 地域活動を支援する助成制度等の事例
	ICT・IoT を活用した見守りツール等	<ul style="list-style-type: none">・ オンライン・リモートに対応した新しい見守り方法として、ICT・IoT を活用するツール等の事例

(2) 取組の実績

コロナ対応の活動等については、「ささえる・つながる」プロジェクト補助金の立上げにあたって、対象となるような活動のイメージを固めるため、また補助金の募集要項等をまとめるため、主にコロナ禍における「新しい生活様式」に合致するような高齢者支援の取組や、コロナ禍以前から行われている地域活動を支援する助成制度等の事例の収集・整理を行っています。

ここでは、前者に該当する事例の概要を紹介します。

▼コロナ対応の活動やこうした活動を支援する取組の参考事例

◇ インターネットを活用した各種の取組や、「青空体操」、「ミニトマトの苗木の配布」といった様々な取組を以下の通り整理して、補助金の募集要項等で提示した

パターン	概要	具体の活動事例
ふれあい	接触を回避しながら交流する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 手紙やノート、掲示板等を介した交流 ● 電話やスマートフォン、タブレット等の情報機器を活用した交流 ● 在宅生活の寂しさを和らげる花や野菜の苗木の配布を通じた交流
ふれあい	適切な距離を保って／感染防止策を講じて交流する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 青空体操、青空サロン、農作業等の共同作業 ● マスクや消毒液の用意、その他の対策を行った上で実施するサロン活動
ささえあい	その他の困りごとを支援する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物の手伝い、料理のおすそ分け等 ● おすそ分けの品でオンライン昼食会 ● 地域で重りを配布して各人が自宅で行う介護予防体操



ICT・IoTを活用した見守りツール等については、コロナ禍の新しい生活様式として推奨されるオンライン・リモートに対応した新しい見守り方法として、以下のような事例の収集・整理を行っています。

▼ICT・IoT を活用した見守りツール等の参考事例

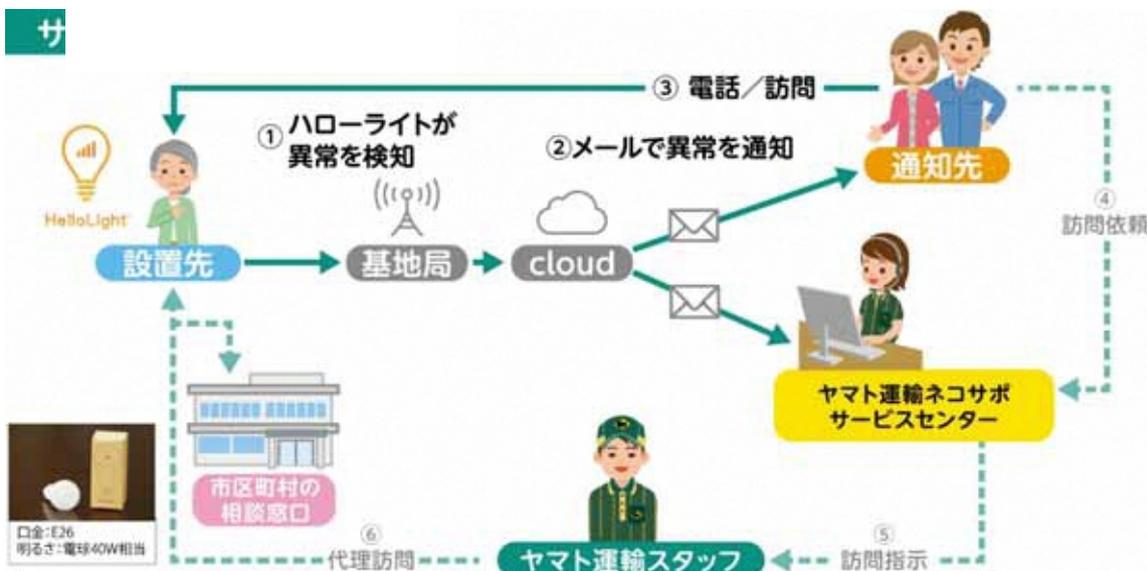
◇ 見守りの方式によっていくつかのパターンに整理し、既に市内で導入されているサービスと比較してどのような特徴があるかを提示した

パターン	市内事例	現行の課題とこれに対応するツールの事例
通報 (接触型)	緊急代理通報(ペンダント) あり	発信に遠慮するという課題の指摘あり →岩手県立大学「おげんき発信」等 (平時からの通報(発信)を促す事例)
センサー※1 (非接触型)	ハローライト あり	もしもの時の安否確認方法に課題の指摘あり →クロネコヤマト「あんしんハローライトプラン」 →福岡市「ICT活用の実証実験」等 (安否確認のサービスを付加した事例※2) →東電PG「居宅内生活行動モニタリングシステム」等 (生活情報を集めQOLの向上を目指す事例)
その他	避難情報の自動音声発信 あり	電話には出ない人も増えているが… →岩手日報「いわぼん」等 (SNSやアプリを活用する事例)
訪問・電話 (対面型)	配食、パルシステム、ヤクルト等 クロネコヤマト等 郵便局等	配達物の内容に応じて定期的な訪問を実施 買い物支援や公的刊行物の配布と組み合わせて 配達(対面)の機会を創出する例あり サービス利用者(契約者)宅へ定期的な訪問、電話を実施

推進員の他にも…

※1 特定の機器の利用状況や人の移動等を知らせるセンサーを利用する例は多数あり
※2 ホームセキュリティ分野でも緊急時の駆けつけサービスを付加するサービスあり

◇ 「あんしんハローライトプラン」サービス全体イメージ (同サービス HP より)



コラム ICT・IoT の活用による新しい社会の実現

国の第5期科学技術基本計画（平成28年1月）では、我が国が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」（下記参照）を提唱しています。

コロナ禍の「新しい生活様式」として様々な分野でオンライン化・リモート化が進んでいますが、その先にはこの「Society 5.0」が目指すICT・IoTを活用した新しい見守り支援などが控えています。

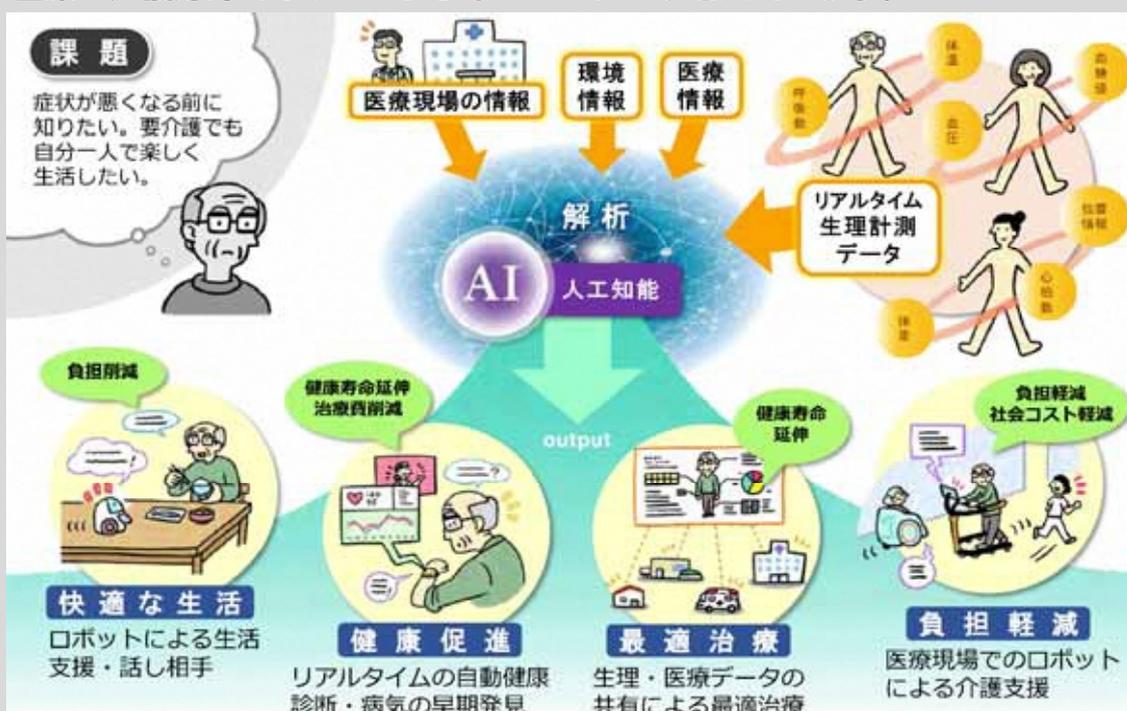
▼Society 5.0 とは（内閣府作成資料より）

- ・「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」と定義されています。



▼Society 5.0 が実現する社会のイメージ（内閣府作成資料より）

- ・医療・介護分野では以下のようなイメージが示されています。



3 - 3 今年度の取組の達成状況と次年度の対応案

各取組の実施状況を踏まえて今年度の成果と課題を以下の通り整理しました。

▼成果・課題

<p>成果</p>	<p>《検討部会の開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で例年とはことなる環境となりましたが、オンライン開催を含め、何とか検討部会を継続的に開催することができました。 ・検討部会を通じて、各地域包括支援センターの活動状況の共有を進めたほか、包括相談員の意向を確認し、メール配信の構成などをより見やすい、分かりやすいものに見直すことができました。 ・事前の資料配付にあわせた意向把握を実施し、検討項目が多い中で各包括の意向把握やオンライン会議への対応を比較的スムーズに行うことができました。 <p>《事業 PR の実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに始めた見守り関連情報のメール配信の PR を含め、コロナ禍に対応したテーマで3号のニュースレターを発行することができました。 ・また、ニュースレターの他にも以下のような新たな PR を始めることができました。 <ul style="list-style-type: none"> －見守り関連情報のメール配信 －メールの配信にあわせた市 HP への関連情報の掲載 －日野市公式 LINE での情報発信 <p>《先進事例の検討調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集したコロナ対応の活動等の事例を参考に、「ささえる・つながる」プロジェクト補助金を立上げることができました。 ・ICT・IoT を活用した見守りツールについても、検討部会において今後の方向性に関する意見交換を行う際の材料として活用することができました。
<p>課題</p>	<p>《検討部会の開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応など新たな議題が多くなり検討項目が多岐にわたったため、前年度に引き続いて、意見交換の時間がやや短くなってしまった議題がありました。 ・結果として、コロナ対応や ICT・IoT を活用した見守り等の議題について、(すぐに答えが見つからない議題ではあるものの) コレという方向性を見出すことができませんでした。 <p>《事業 PR の実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢にあわせた情報発信ができた一方、既存の見守り事業に関する PR や、計画的な情報発信という点では課題が残る一年となりました。 ・ようやく運用を開始することができた見守り関連情報のメール配信については、コロナ禍で当初予定していたような大々的な PR を行うことができませんでした。 <p>《先進事例の検討調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応については、「ささえる・つながる」プロジェクト補助金の立上げ以降、新たな事例の調査を行うことができていません。 ・ICT・IoT を活用した見守りについては、バリエーションを把握するに留まり、コレという方向性を示すような詳細な調査を行うことができませんでした。

▼対応案

対応案	<p>《検討部会の開催》</p> <ul style="list-style-type: none">• ICT・IoTの活用といった全市的な課題と各地域での見守り支援の展開といった個別の課題を整理するなど、検討部会に諮るべき議題を精査し、会議の進行の改善を図ります。• 特に後者の課題については、検討部会とは別に、個別に意見交換や相談を行うことも検討します。 <p>《事業PRの実施》</p> <ul style="list-style-type: none">• コロナ禍がすぐには収束しないことを前提に、コロナ対応と見守り事業のPRを並行して進めることができるよう、計画的な情報発信に努めます。• メール配信については、より多くの人に登録してもらえるよう、役に立つ情報発信を心がけるとともに、登録支援チラシ等のインターネット分野以外でのPRにも取り組みます。• また、情報発信の媒体が拡大したことを踏まえて、それぞれの媒体の特徴（フロー型、ストック型等）を見極め、より良い情報発信や相乗効果を生み出すような情報発信のあり方を検討します。 <p>《先進事例の検討調査》</p> <ul style="list-style-type: none">• コロナ対応については、市内外の新たな取組の事例を収集し、そこで得られた知見を活かして活動団体の支援に継続して取り組んでいきます。• これからの大きな課題となるICT・IoTを活用した見守りについては、日野市の課題や方向性の整理を進めながら、参考となる事例の調査を行います。• 上記のような今年度の積み残しの課題に取り組むとともに、新たな課題に対応した情報収集についても必要に応じて対応していきます。
-----	--

2020年度
日野市高齢者見守り支援ネットワーク事業報告書

発行 2021年4月

編集 日野市健康福祉部高齢福祉課

〒191-8686

東京都日野市神明 1-12-1

電話 042 (514) 8496

<http://www.city.hino.lg.jp/>
